



ウィンターカップ2026静岡県予選 大会展望

中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

第79回全国高校バスケットボール選手権大会(ウィンターカップ2026)静岡県予選が令和8年10月10日に開幕する。11月8日に静岡県武道館で行われる決勝戦で県代表が決まり、12月23日から高校バスケの聖地・東京体育館および昨年武蔵野の森総合スポーツプラザから名称変更されU15Jr. ウィンターカップの会場としても知られる京王アリーナTOKYOで行われる全国選手権大会へ出場する。今年は男女とも全国出場枠は1枠、男子は藤枝明誠、女子は浜松開誠館という夏の全国総体で勝利を重ねた全国トップレベルの強豪を中心とした優勝争いだけでなく、両巨頭に迫るチーム同士の熾烈な凌ぎ合いにも注目が集まる大会となる。全体を総括してまとめると、男女とも同じような構図が予想される今大会、男女の絶対王者が空高く君臨し、県総体2、3位チームが猛追、同じく4位~7位までのチームがメインコートを目指し追従、それを追う上位チームが聖地・県武道館のコートでのプレーを夢に描いて大会を迎える。

まず大会レギュレーションを確認しておきたい。今年は男女とも3位決定戦を行わない**完全ノックアウト方式のトーナメント制**、優勝チームのみが全国の檜舞台を踏む。出場校は少子化や部活動の統廃合の影響から昨年と比べて男女合わせて6校減だが5校が復活、初出場も1校出てきたことは朗報である。開幕は大会史上最速の10月10日、翌日の試合で男女のベスト32が出揃い、2週間のインターミッションを挟んで24日に県武道館進出を賭けて男子4、5回戦、女子3、4回戦が行われ、31日、11月7日、8日と恒例の県武道館シリーズに突入する。例年と比較してイレギュラーな2週間の大会休止期間に10月15日から青森県で**国民スポーツ大会**(「青の煌めきあおもり国スポ2026」)が開催され、本県からは**国民スポーツ大会東海ブロック予選**(東海国スポ)で愛知県・三重県を破り見事準優勝した**少年女子**が2年ぶりに出場する。

その他、24日までの試合はモルテンまたは**ミカサの8面体球**を、県武道館シリーズからは全国大会同様**モルテン製12面体球**を使用、メディア情報としては今大会もスコアシートをAIで読み取り県協会ホームページのU18カテゴリートップバナーで速報し**県協会公式LINE**で登録者のスマートフォンに通知するシステムを試行、昨年度末で廃止された県協会公式アプリの代替として正式運用を目指す。書籍では今年もオールカラーの大会特集号「**D-sports SHIZUOKA**」が発行され、同じく西部地区上位校を中心とした「**Jr. Athlete PLUS**」も無料刊行、最終2日間は例年同様**トちゃんねる静岡**と**ウィンディ**にて全試合生中継、また男女決勝は**バスケットLIVE**でもライブ配信する。さらに今年も**静岡朝日テレビ**にて男子決勝を録画中継予定、**朝日放送制作**の「**部活ピーポー全力応援!バカビ!**」も最終日の様子をテレビや**YouTube**で配信、さらには今年も**朝日新聞社**から優勝チームの**全国出場記念号外新聞**が発行されることは吉報である。

大会関連グッズに目を向ければ今年で20年目となる大会公式アメニティ「**ALL SHIZUOKA**」も発売、昨年度は**サードシップ**のブランド「**EGOZARU**」だったが、今年は**ヤング商事**の人気ブランド「**IN THE PAINT**」を初採用、アリウープパスからダンクに持ち込む瞬間を捉えた印象的なシルエットロゴは「**インペ**」の愛称でバスケファンならずともお馴染み、EGOZARUのチンパンジー同様、ロゴを見ただけでも選手の気持ちを高揚させることは間違いない。ヤング商事には18年間「**BENCH WARMER**」のブランドを県予選公式グッズとして販売、大会の顔とも言えるブランドも2年ぶりに販売する。また今年も大会期間中に**P&P浜松**と**フォトクリエイト**のフォトグラファーが来場し集合写真に加え、ゴール下のメディアゾーンから決定的瞬間を含むプレー写真を撮影、一部データを県協会の財産として寄贈して頂くことになっている。

全国大会も年々**JBA**(日本バスケットボール協会)が趣向を凝らしてショーアップ化が進み、従来の大会冠スポンサーの**ソフトバンク**に加え昨年は**ジャパネット**も番組冠スポンサーとして加わり「**Japanet Presents SoftBank WINTER CUP**」という大会名称となり、全試合バスケットLIVEと**DAZN**(ダゾーン)でライブ配信、**J SPORTS**、**BS10**、**BS朝日**、**テレビ朝日**系列でも試合を限定しながら生中継される予定で、まさに数年前までは想像もつかなかったスポンサー数と盛り上がりを見せていることは予選に参加する選手たちのモチベーションを大いに高めるものである。

現在今年で5年目となる**U18日清食品トップリーグ**も同時進行していて、今年は昨年度末の入替戦で宮崎工業と福岡第一を撃破した藤枝明誠が2年ぶり3度目の**ディビジョン1**に出場、さら全国の頂点を極める強豪と毎週凌ぎを削っている。**ディビジョン2**(旧称:U18日清食品ブロックリーグ)には男子は昨年の県1部リーグで優勝した浜松開誠館、女子は浜松学院興誠との参入戦を制した浜松開誠館がともに5年連続5度目のアベック出場を果たした。ディビジョン2でグループ優勝を果たせば最低でも翌年の出場権に加え、入替戦への出場権を得られるため各チームが今まで以上に育成と勝敗にこだわった戦い方を繰り広げている。他のチームも県協会主催の**U18リーグ2026静岡**に参加して毎週末上位リーグ昇格を目指して切磋琢磨しており、特に県1部リーグの優勝チームには来春行われるディビジョン2への**参入戦出場権**も付与されるため各チームはリーグ戦を育成だけでなく実戦の場であると認識し始め、バスケットに**リーグ戦文化**が完全に根付いたことは喜ばしい限りである。

今回の大会展望執筆では優勝候補や上位チームだけでなく、合同チームや初出場または久々の出場など特徴あるチームにも多くの紙面を割いたことにご理解頂きたい。そのために多くの顧問の皆様にも取材に応じていただき情報を提供してもらった



ことにこの場を借りて感謝の意を表したい。そして今回も**山口裕史**県協会広報副委員長（矢崎部品（株））にも協力して頂いた。厚く御礼を申し上げるとともに、近い将来私の後継者として県協会広報委員会のしかるべき要職に就き、「日本一の広報体制」を引き継いでくれることを心から願う。

男子

3月の入替戦で福岡第一と歴史に残る死闘を繰り広げ県勢として初めて福岡第一に勝利を挙げて2年ぶりにトップリーグに帰還、続く県総体でも圧倒的な強さで制し全国総体でも駒大苫小牧、そして地元大阪王者・箕面学園をとともに大差で下して全国ベスト16、現在この大会4連覇中、県内大会も13連覇中、県内連勝も93まで伸ばし年度内の100連勝突破も見えてきた藤枝明誠が文句なしの大本命である。それを猛迫するのは昨年のウインター県代表、東海新人・東海総体にも出場した浜松学院興誠と、7大会連続県4強以上、同じく東海新人・東海総体に出場し安定した実力を誇示する浜松開誠館、これら3強に県総体4位から7位の浜松商業・静岡学園・城南静岡・沼津中央が続き、浜松西・菰山・飛龍などの実力派チームが県武道館そしてメインコートを狙う展開が予想される。しかしながら昨年と違い全国出場枠はたった「1」、どのチームも藤枝明誠を倒さないと全国への扉は開いていかない。

左上のブロックは、毎年第1シード藤枝明誠の独壇場と化している。藤枝明誠は大会期間中にトップリーグ・仙台大明成戦、終了直後にも代々木第一体育館で帝京長岡との最終戦をこなす超ハードスケジュール、その王者へ県武道館での挑戦権を賭けて県総体8位の浜松西とベスト16の**静岡**が争う展開が予想される。

県内完全無敵の**藤枝明誠**は圧倒的な強さで県総体5連覇を達成、続く東海総体では連覇を目指したが準決勝でオーバータイムの末三重県覇者・四日市メリノール学院に惜敗、結果として3位に終わった。「東海の仇を全国で」と臨んだ全国総体でも強豪相手に強さを見せつけ、特に開催地王者の箕面学園戦は完全アウェー感漂う「四面楚歌」の中でもチーム自体が全く平常心を乱すことなく冷静沈着な試合運びで快勝、強さの秘訣を再確認させてくれた。続く東海ブロック最大のライバルである東海王者・中部大第一には最後まで1桁得点差で粘りを見せたが最後に足が止まり惜しくも敗れ全国ベスト16に終わったが、観ている側にも大いに冬への手応えが伝わってきた一連の戦いであった。先述の通り、今年は春の入替戦で県勢長年の宿敵であった福岡第一に劇的勝利を挙げて2年ぶりにトップリーグに生還、一足先に開幕したリーグ戦ではインハイ王者・福岡大大濠と過去幾多の激闘を繰り広げた東山に連勝するなど滑り出しから絶好調、夏・秋に渡る県内外強豪との戦いを通じて全国制覇に足るだけの強さを備えていくはずである。

昨年の野津洸創（早稲田大学）に相通じるように、藤枝明誠のエース＝大会No.1注目選手、その図式は当分変わることはない。それに当てはめると今年は間違いなく**渡邊聖**が該当する。スピード・テクニック・パフォーマンス、三拍子揃ったうえにショーマンシップも持ち合わせる貴公子、人呼んで「コート上のファンタジスタ」、その一挙手一投足に視線が釘付けになった方々も多いはずである。福岡第一戦最後の最後に見せたステップバック3Pは今や伝説と化した一撃、この選手を語る上で今後も欠かせない1ページとなる。事前に状況を確認しておいたレシーバーからいったん視線を外しドライブに行くと見せかけて、守備側の意識が薄れた瞬間刹那に放つノールックパスは日本初のNBAプレーヤー・田臥勇太（宇都宮ブレックス）の全盛期を思わせる「キラーパス」の域、新月面を描くかのような3Pの放物線はボールだけでなく観客の心をも吸い込んで行く。この夏後藤（浜松開誠館）とともにU18日韓中Jr.交流競技会にも出場した日本有数のクラッチシューターが見据える目標は、試合を通じて個々の技術の底上げを行い、その結晶がチーム力の強化に結実して圧倒的な強さで県を制し、トップリーグそしてウインターの全国2冠を勝ち取ることでありと確信する。インサイドの200cm**アメーエマニュエルチネメルン**はゴール下やポストプレーだけでなく、カッターディフェンダーの背後からかけるスクリーンやペイントエリアへ飛び込むタイミング、確率を考慮して味方のパスをさばく技術に著しい成長の跡が見られる。課題であったスタミナ面も見事克服、偉大なる先達・ロードプリンス（江戸川大学）の後釜という枕詞が失礼に当たるくらい自我に自信を持ったレベルの高いプレーが出来るようになった。適度なレストが必要な時や詳細な戦術面の確認を行う時は205cm**ンバイモドウ**が代役を務め、それ以上の働きをコート上で見せる。3人目の留学生として今年度南スーダン共和国から加入した202cm**アキーンジョングランゲメル**は県総体初日に日本デビューを飾り、背筋がきちんと伸びた対面シュートを見せて周囲を驚かせた。ご承知の通り、留学生に関しては「登録数は制限なし、ベンチ入りは2人まで、コート上でのプレーは1人のみ」というオンザコートワンルールがあり、今大会での活躍機会は限られているが来年以降のことを考えて早い時期の試合に起用される可能性もある。

司令塔・**高平爽太**はリーダーとしては物事を冷静にニュートラルに見て判断して指導者との潤滑油になるバランス感覚に優れ、プレーヤーとしては与えられたタスクを黙々とこなし得点に結びつけるタイプ、得点能力もさることながら福岡大大濠戦で見たアシスト・スティールや雨あられで攻守に多大な貢献をもたらすトップアスリートである。**福本彩人**は来年この大会では最大の注目選手になる次世代のエース、得点感覚に秀でていてトップギアのスピードでゴール下をペネトレイトし鍛えられた腕力でディフェンスをなぎ倒してレイアップを見せるなど華のある選手である。193cm**永田貴陸**は長身を利してインサイドから相手の守備を崩すプレーが卓越していてゴール下で1on1が成立した瞬間を見逃さず波状攻撃を仕掛けるプレーを得意とする。その他にも、常時コートに立ちすべての攻撃に絡むオールラウンダー・**徳田翔太**、入部時から見せる泥臭いプレーで貢



献する**小森蒼斗**、福岡第一戦での大活躍をその後の飛躍につなげた**山城空楽**、加速力が半端ではないドライブが魅力の**須貝頼勇**、そして172cmという小柄ながら足を使ったランプレーで相手のスタミナを奪い取る**濱崎煌大**などスター選手を挙げれば枚挙に暇がない。

そして忘れてはいけないのが鳴り物入りのゴールデンルーキー・**平岡泰介**。藤枝明誠が全国大会に初出場して20年余、数々の新人が入部の門を叩いたがこれほどの大物新人加入は私の記憶にない。RIZINGS徳島時代にJr. ウインター優勝、中学生ながら飛び級でU16日本代表に選ばれるなど実績がすでに桁外れ、総体予選での登場を心待ちにしたがゲガで欠場、総体でも大事を取ってベンチ入りを見送られた。そしてついに8月のトップリーグ初戦・鳥取城北戦で神秘のバールを脱ぎ待望の初出場、いきなりスタメンを拝命しバスケの聖地・代々木第二体育館でチームトップの15リバウンドを挙げ非凡なセンスを披露した。今後リーグ戦での出場を続け、今大会満を持して県内でその雄姿を初披露することになるはずだ。バスケファンはこの選手のプレーをその目で見ようと県武道館に集結するはず、それだけの価値に値するスーパースターの県内初陣が今から待ちきれない。言わずもがなの県下無敵、もちろんそれに満足することはなく目標は全国制覇、個々の能力や技量で圧倒するのではなく組織としてそれらを機能させ完成度を上げていくバスケットで勝利を積み上げて県制覇、そして全国制覇も誓う。

浜松西は県総体2回戦で県新人7位の菰山に快勝し8強を堅守、今大会は例年通り新チームになって2年連続のベスト8を目指す。辻本直矢・坂本陽樹という2年間チームを牽引した大黒柱の穴を、昨年来司令塔という重責を担い指導者にそして先輩たちに鍛えられてチームの顔に成長、安定感あるボールキャリアとスピーディーなフィットネスが魅力の**山田祐碧**や、昨年来山田と共に下級生としてベンチ入りし出場機会を与えられてきた**深井優孝**、中学時全国大会を経験したキャリアとテクニックを引き下げて入部直後からレギュラーを獲得し経験値を重ね、エコパでも随所にポテンシャルの高さを披露し見る側を唸らせた**原田隼**を中心とした新進気鋭の面々で静岡との試合を確実に制し、5年ぶりの県武道館で絶対王者に挑む。

このブロックの注目選手として、**端野恵音**、**東翠人**、**砂川恵汰**、**野口練**（藤枝明誠）、**水野大誠**、**松永大和**、**阪本玲桜**、**高橋冠式**、**小林尚悟**（科学技術）、**仲澤猛**、**岩崎充輝**、**山中奏和**、**勝又疏光**、**谷村尚澄**、**岡田爽史**、**塩崎蓮貴**、**大場純矢**（加藤学園）、**三浦和希**、**岩崎翔**、**大久保征哉**、**眞田輝希**、**岩崎来成**、**高木説治郎**（常葉大橋）、**中澤優乙**、**坂口司**、**エンテスダビデ**、**松浦巧真**、**五十嵐凱音**、**岩瀬蒼生**（浜松工業）、**山本基心**、**菅琥徹**、**桑高蒼輔**、**伊藤亮佑**（浜松西）、**シダギロ**、**松下利究真**（浜松江之島）、**山添太耀**、**大嶽聡太**（沼津東）、**鈴木宏夢**、**橋本匡駆**、**中津川領士**、**鈴木嵐**、**守屋佑真**、**金原永武**（浜松啓陽）、**川原真三**、**飯塚久斗**、**瀧秀斗**、**齋藤一翔**、**大岩樹生**、**渡辺翔太**（静岡）、**谷村蒼空**、**杉山大河**、**野田陽斗**、**芹澤陽向**、**清水政虎**（島田樟誠）、**高屋敷駿**、**佐野愛斗**（富士市立）、**芹澤幹陸**、**ガウデンシオ**、**鋤持登生**（沼津高専）、**望月龍佑**、**三木瑛介**（静岡聖光学院）、**守山涼**、**楠野翔**、**小林稜也**（浜松北）、**中山裕勝**、**板垣遥大**、**鍋島杏介**、**黒崎竜生**（星陵）、**遠藤大和**、**中山楓太**、**長野湊大**、**大橋蓮太郎**、**吉田結人**（袋井商業）などを挙げたい。

左下のブロックは県新人・県総体ともに4位の浜松商業と、県総体で浜松西・城南静岡にシビアな展開から僅差の連勝で5位を掴み取った静岡学園が実力伯仲、準々決勝で雌雄を決することになる。勝者が藤枝明誠と対戦することになり、絶対王者への挑戦権に加えて静岡学園は2年連続、浜松商業に至っては平成24年以来14年ぶりのメインコートで賭けての戦い、県新人ブロック決勝では8点差で浜松商業が勝っているが新人戦と3年生最後の大会では選手の胸に潜む想いは別次元、まさに死闘が予想される一戦の勝敗はOnly God knows（神のみぞ知る）である。

浜松商業は県新人・県総体で見事4強入り、東海大会出場を賭けた3位決定戦では浜松学院興誠・浜松開誠館という同地区の私学勢に果敢に挑み好勝負を演じたがともに惜敗、特に東海総体を逃した試合は選手一同涙に明け暮れ見ている側も辛くなった。当然のことながら連続県4位は胸を張れる勲章、特にさまざまな制約のある公立高校としては立派の一語に尽きる実績である。その証拠に今年8月に滋賀県で初開催された全国公立高校大会に静岡県代表として出場、宗像に惜敗、日川に引き分けて回った順位トーナメントで千種、市立尼崎、長崎西、熊本第二の強豪相手に全勝、3位T優勝という立派な成績を残した。天皇杯予選にも高校勢として唯一出場、敗れたものの静岡産業大学相手に気迫こもる試合を演じた。まさに静岡県が誇る「公立の雄」、まずは14年ぶりのメインコート出場を目指す。県4強に多大な貢献をした辻村未来、平塚大輝が引退したことは残念であるが、1年から3年まで幅広く戦力が揃う。

中心となるのは2年生エース・**伊藤来晟**。中学時代に幾多の全国大会を経験したキャリアと経験値を武器にスピードでチームに貢献するリバウンドの動向を的確に見極めて絶妙なロケットスタートでブレイクを仕掛け、戻りも速くまさにコートの端から端まで縦横無尽に走り回る「ミスター・コーストトゥーコースト」と命名したい。確固たるリバウンド力を武器にエースの走りを演出する**中山雄陽**はパスコースの設定が一級品、**久野綾大**はトップ位置からウイング方向に回って寄ってくる相手を丸太のように頑丈なアームで制しブロックをかき分けジャンパーを決める勝負師、そして1年次から要所で起用され続け修羅場も潜り抜けた**和田悠慎**は相手の合わせがうまく機能して抜かれた時も遅れ気味ながらも接触を起こさないようトルソー（胴体）を垂直に面してブロックアームはボールのみに当ててなおかつそのあとのリバウンドも強く意識するディフェンスが信条、天皇杯予選で2本決めた3Pも武器のマルチプルプレーヤーである。**坪井達真**は安定感のあるプレーでスタメンの座を死守し続ける苦労人、その努力の跡がプレーの随所ににじみ出る職人肌の選手である。由緒ある伝統校の新主将に抜擢された**山本源太**は天皇杯予選大学生相手にチーム最多得点をマーク、新チームの始動として上々の滑り出しを見せて面目躍如を果たした。浜松商業自身としてもさることながら、女子以上に私学全盛の男子バス界で14年ぶりに公立高がメインコートでプレーでき



るのか、それを決める準々決勝で予想される静岡学園との戦いは県武道館決戦初日最大の目玉カードとなる。

昨年大会で決勝リーグに進み最終日まで全国出場の可能性を残した**静岡学園**は新陳代謝の入れ替え時期となり県新人6位など苦しい戦いが続いたが、県総体は昨年全国を争った浜松学院興誠に敗れたものの、その後浜松西・城南静岡に非常に苦しい戦いを強いられながらも接戦を制し5位を勝ち取った。今回もメインコートでの試合を目指し、県新人僅差で敗れ辛酸を舐めた浜松商業とのリベンジマッチが準々決勝で待ち受ける。今回も1点を争う展開が予想されまさに準々決勝屈指の好カードとなる。

私は今年の静岡学園の「顔」としてインサイドの**細澤慧太郎**を推したい。187cmの長身と広い肩幅を生かしたプレーで経験を積み、昨年の決勝リーグ初戦では偉大なる先輩たちに交じってスタメン大抜擢、**近野修**監督の目先の勝利だけにこだわらない長期展望を見据えた起用に驚きと納得が入り混じった印象を抱いた。新チーム発足以降、その指揮官の期待を裏切らない成長と活躍を続け、特に留学生とディフェンスでマッチアップする際に見せる脚を絡めたシール（面取り）は相手が露骨に苦悶の表情を見せるなど対策が功を奏していた。敢えて課題を挙げるとすれば留学生とのマッチアップ時のオフェンス面、20cm近く違う相手にまともに勝負を挑めば mismatch、ブロックされてブレイクされるのが関の山、留学生対策は日本人選手全員が抱える永遠のテーマであるが解決策と言わないまでも試合を通じてそのヒントを見つけ出せる選手がいるとしたら現在県内ではこの細澤が筆頭候補に挙がるだろう。細澤以上に昨年来チャンスを与えられているのは**石井蓮音**。175cm、決して大柄とは言えないが飛び込みのリバウンドやインサイドプレーにも従事、昨年のエース・内山直陽（国士舘大学）を強く意識したドリブラーでもある。その他にも、県選抜に選ばれた経験を持ち大型選手の持ち味を封じるディフェンスに定評がある**鈴木麻也**、キャプテンとして全体を掌握しながら雰囲気や調子を常時意識して仲間の長所を引き出す黒子のバスケを見せる**水上陽向**、チーム随一192cmの長身を生かしたセカンドショットの精度を上げる**永田史晏**、常に広いシュートエリアを保ちシュートにもドライブにもパスにも行けるテクニシャン・**中澤和雅**、戦場と化すゴール下に飛び込みリバウンドを掴みバックカットした仲間絶妙のアウトレットパスを出す**清久春樹**、そして著しい成長が指揮官の目に留まりワンチャンスを生かしてスタメン戦線に浮上した**大畑城太郎**など指揮官理想のバスケをコート上で描き勝利まで直結させることが出来る十分な戦力で浜松商業との試合を制し、昨年同様メインコートで絶対王者に挑む。

少子化による競技人口の減少が高校男子にも影響を及ぼし始め、昨年は男子初の合同チームが出場、吉原の不足を補う形で人数が充足している**吉原工業**が「吉原工業・吉原」としてエントリーした。今回は該当チームがすべて人数不足による3チーム合同チームが誕生、もちろん県内男子初、**松崎・南伊豆・土肥**である。このチームはそれぞれ違う学校の本校1・分校2が合同を結成したまさに異色中の異色チーム、さらに言えば57年を数える本大会の中で合同チームとはいえ分校が出場するのは初となる。**土肥**は伊豆総合高校土肥分校、平成29年に分校化されその前年までは土肥高校としてウインター予選に単独出場しており、実質10年ぶりの出場となる。**南伊豆**は下田高校南伊豆分校、前身は下田南高校南伊豆分校で農業教育センターの分校、こちらは前身から現在に至るまで公式戦に出場したことがなく、正真正銘今大会唯一の「初出場校」である。南伊豆は本校・下田も常時大会出場していて、今回は互いに反対ブロックに配置されたが今後県内初の「本校vs分校」という戦いが見られるかもしれない。**松崎**は下田・稲取を含めて令和10年度からキャンパス制を取り入れて同じ傘下に入る予定である。

松崎4名、土肥1名、南伊豆1名の計6名、母体となる松崎が部員不足で困っていた時に顧問や選手たちが地域のスポーツ祭で知り合った友人や中学時代の同級生に声をかけ結成に至った。「Nature×Sports」というスローガンを掲げ、伊豆の自然の恩恵を享受しバスケット仲間と青春を謳歌しよう！をモットーにバスケットに勤（いそ）しむ。**鈴木陽夢**（松崎）はキャプテンとして常に声を出しルーズボール獲得に汗を流す。**土屋太陽**（南伊豆）は3年生、初ウインターがラストウインター、抜群のクイックネスを武器に相手ディフェンスをなぎ倒す。**加藤魁湊**（土肥）は8月に新加入した2年生、「合同チームのリーサルウェポン（最終兵器）」としてトレーニングに余念がない。3校の時間調整に苦慮し平日は各校で練習、週末は松崎に集まり合同練習をして戦術の確認を行うなど限られた時間の中でも声を互いに掛け合い意思疎通を図り、一緒にプレーすることを通してチーム強度の底上げを実感する。この大会を通じてより成長しバスケットをやりたいと思う後輩が増えること願ひ初戦を迎える。

このブロックの注目選手として、**益山凱音**、**泉地龍空**、**油井健斗**、**中原輝海**、**高橋暖智**（静岡学園）、**吉田陽風**、**宮下陸**（小笠）、**平本琉偉**、**松田悠杜**、**吉田和馬**、**石原由輝斗**、**永田敦士**（浜松商業）、**小松原颯馬**、**漆畑和真**（清水国際）、**白鳥佑宇**、**金刺暖**、**杉山唯月**、**大杉悠樹**、**大寄嘉也**、**河本颯士**（静岡商業）、**今福悠人**、**中村琉泉**、**後藤礼哉**、**長谷川泰一**、**松本佑磨**、**川口颯太**、**白木陽太**（三島北）、**久保依里守**、**鈴木寛大**、**宮嶋理斗**、**山内颯**、**舟橋諒**、**小林春翔**、**中村竜太郎**（浜名）、**仁田湧大**、**岩倉琉空**、**太田佑里**（島田商業）、**田村悠人**、**増田遥斗**、**田中湊**、**見上空雅**、**杉山歩毅**、**吉永篤樹**（静岡北）、**小野房航希**（富士）、**村松勇志**（藤枝北）、**大隅翔斗**、**吉村颯馬**、**原幹琉**（相良）、**大高草治琉**、**榊原煌**、**本宮正仁**（島田）、**阿部悠里**（浜松学芸）、**瀬崎堅斗**、**佐野匡都**、**戸塚順翔**、**吉川心翔**（浜松聖星）、**大島優成**、**長島叶真**、**土屋佑斗**（三島南）などを挙げたい。

右上のブロックは、昨年大会3位・県新人準優勝・県総体3位と安定した成績を残し続け、残る目標は5年ぶりの優勝と全国出場しかない浜松開誠館と、県総体5決T初戦で沼津中央相手に観る者の目を惹きつけるバスケットを展開して鮮やかな逆転勝利、静岡学園戦は接戦の末惜しくも敗れたが、多くの人がこの先の成長と指揮官の求めるバスケット観の定着に期待を募らせる城南静岡を中心とした争いが予想される。



浜松開誠館は一昨年の県総体以来県4強以上を維持し続ける安定感が最大の特徴である。昨年この大会で最終試合まで優勝と全国の可能性を残し結果的に3位に終わったが、その後の県新人準優勝・県総体3位、5年連続日清食品リーグ戦出場など想像以上に難しい長年県上位を現在までキープし続けている。総合力で王者と互角に渡り合える数少ないチームである。

チームの柱は静岡県が全国に誇る至宝・**後藤大駕**。197cmという恵まれた体格を生かして下級生から幾度となくアンダーカテゴリーで日の丸を背負った大器が昨年この大会で一気に覚醒、名実とも一流選手に成長した。蛇足ながらバスケットにおけるサラブレッド一家に育ち、父親・**後藤正規**監督、母親ともに日本代表経験が豊富、姉・後藤音羽（東京医療保健大学）も先月ドイツで行われたワールドカップに日本人大学生選手として初めて出場、弟・大駕も将来的に日本代表になりうる逸材であると強く確信する。今夏もU18日韓中Jr. 交流競技会に日本代表として出場してさらにキャリアアップ、今大会でもダイナミックな中にも繊細な技術と気配りを垣間見せるプレーを多くの方々に会場で直接見てもらいたい。キャプテン・**石田唯翔**は闘志溢れるバスケスタイルで外でも中でも得点に絡み勝利を引き寄せる必要不可欠な選手に成長した。バスケセンスの塊（かたまり）と言えば**木村咲大**、基本に忠実なプレーを信条とし繰り出される華麗かつ多彩な攻撃は超一級品、戦況とフロアバランスそしてチームの約束事を十分に考慮して「次の手」を打つ頭脳のバスケは天下一品、プレーの合間にも積極的に仲間とのコミュニケーションを図る姿は頼もしい限り、昨年来怪我に悩まされた時期が続いたが最後の冬に向けて全身全霊のプレーを見せてくれるに違いない。

昨年国スポだけでなくチームの主軸としても活躍したキャリア抜群の**鐘ヶ江咲人**は稀代のスコアラー、得点を取る技術と嗅覚は神が授けた贈り物、東海総体・高山西戦でも21得点を挙げその才能はもはや県レベルを大きく超えて東海でも十分通用するレベルにある。**鈴木柊矢**はU15で全国制覇を経験、アンダーでも強化合宿にも招集されて持ち味のディフェンスをさらに強化しスタメン起用が続く中でチームの背に成長した。その他にも、浜松商業戦でスタメンに大抜擢され膠着した試合の中で終盤落ち着いてフリースローを3本連続で決めるなど13得点を挙げて6年連続東海総体出場に貢献した**桑原慧斗**、東海国スポにも出場した**柳川直人**、気持ちがこもったプレーはもちろん声で周囲への配慮も欠かさない精神的支柱・**小長井奏空**など充実した戦力で、特徴である「人とボールが常に動く攻守に渡るトランジションバスケ」を積極的に仕掛けて、準決勝で予想される永遠のライバル・浜松学院興誠と今年2勝1敗の決着戦を制し、決勝で王者に昨年の雪辱を果たして5年ぶりの優勝・全国を勝ち取る。

県総体、特にエコパで**城南静岡**のバスケ見て「目から鱗」だった方も多はずである。目まぐるしく交代を繰り返しながら速いトランジションを展開、次々出てくる選手のクオリティーも落ちず、点差が致命的に離れそうになる一歩手前で**多々良哲久**新監督が戦術をガラッと変更し、それが功を奏して相手がたまたまタイムアウトを取り対応策を練ってくるとあっさりその戦術を変更して相手を幻惑させる考え抜かれた最先端を描くバスケットを見せてくれた。当日プレスルームでもそのバスケスタイルが記者の間で話題となるなど、プロチームのコーチ経験を生かして高校バスケットに新たな風を吹かせている。

市川天道は監督の求める戦術を誰よりも早く理解しプレーで体現、自身も得点感覚に優れたスコアラー、相手に突き放された点差を連続3Pで詰めて最後は逆転の立役者となる絶対的エース、県総体6位の原動力ともなった。この選手は説明するよりも会場でその魅力を存分に見て頂いた方が「百聞は一見に如かず」である。**木村零月**はトップギアで加速する縦の突進とラリー合戦で見せる無尽蔵のスタミナが魅力である。**影山奨真**は試合を重ねるたびに試合巧者となりそれがスキルとなって進歩の跡が見える好選手、木村とともにブレイクからの得点源となる活躍を見せる。エコパで最も評価を上げたのは**安藤大樹**、沼津中央戦での最後の3Pもさることながら、特に最終日・静岡学園戦ではマッチアップした細澤のいいところを完全に封じ、留学生相手にも互角に渡り合う細澤に何もさせなかった鉄壁のディフェンスに私は終始釘付けとなった。ハンドチェックを吹かれないよう細心の注意を払いながら常に相手に触れて相手に無言のプレッシャーをかけてプレーへの影響を蓄積させる先を見据えたディフェンスには脱帽した。その他にも、指揮官に効果的に投入される**宮城島瑛斗・宮島裕翔・中山瑛仁・久保山友羽・小澤友宝・山田佑享**などのメンバーで、まずは確実に強豪・韮山に勝利し、過去何度も厚い壁に跳ね返されてきた浜松開誠館との対戦が予想される準々決勝でも勝利を重ね、初のメインコートを目指して大会に臨む。

5回戦県武道館を賭けて城南静岡との対戦が予想される**韮山**は東部を制した新人戦で県7位、県総体では2回戦で浜松西と対戦し好対照なプレースタイルの妙により見ごたえのある白熱した戦いとなったが惜敗、その雪辱を期して未踏である県武道館のコートを目指す。新チームは平均身長170cmを切るスモールラインナップ、しかしながら唯一の3年生としてエース・新藤が残ったことは計り知れなく大きい。

新藤穂月、昨年来展望で彼の魅力を多く取り上げたのでこの名前を知らない県内高校バスケットファンはいないであろう。まさに「ディフェンスマスター」「ミスターグッディ」、上手の手から水をも漏らさないその国宝級のディフェンスをもう1度見られると思うだけで鳥肌が立つ。相手との間合い、脚の置き方、目線の位置、両足とも軸足になりうる初動ステップ、相手への追従、すべてにおいて研鑽に励むバスケット選手の模範となる守備を見せる。ディフェンスだけでなく攻撃面でも優れ、オールマイティーに何でもこなす浜松西戦では孤軍奮闘、3P4本を含む22得点を挙げ改めてこの選手にはバスケの神様が宿り、何をやっても器用にこなす万能選手であることを再認識した。まさに是が非でも多くの観衆に見てもらいたい選手である。新主将を拝命した**深澤慎之介**を始めとする後輩たちは限られた残りの期間で新藤のプレーから学べるものをすべて学んで吸収し、今大会そして続く新人戦に向けて生かして欲しい。チームの特徴としては先年来続くファイブアウトが基本、どの選手も外からのシュートが研ぎ澄まされた集中力で一心不乱に放たれ高確率で決まるのが特徴、得点だけでなく相手に与える精神的なダメージも大きい。フォーアウトワンインを敷いても、ボールサイドカットしてパッシングダウンからオフボールスクリーンを仕掛



けてチャンスを生み出す。攻撃で常にイニシアティブを握る先手必勝のバスケットで城南静岡を倒し、初の県武道館を目指す。

今回大会プログラム制作における表紙・裏表紙・目次扉絵等の人選をするにあたり、例年以上に男子選手の人選に頭を悩ませた。人材があまりに豊富で嬉しい悲鳴であったが男子扉絵の最後の1枠を決めるのに何人も候補選手が挙がり、悩みに悩んだ末最終的にこのブロックにいる富士宮東のエース・望月虹晴を選んだ。

富士宮東は東部4位で臨んだ県総体、1回戦で西部8位の浜名と対戦、第3Q終了時までには11点差をリードしていたが悪夢の第4Qその差を一気に詰められオーバータイム、そのまま延長戦では得点することすら出来ず無念の初戦敗退となった。延長までもつれたこの試合は男子1回戦のベストゲームだったと言える。その試合でもエースは開始早々アウェイスクリーンからフリーで3Pを決めてシュートコースとフォームのブレのなさを披露、試合中も上背を生かしたゴール下やウイング位置からのドライブ、中でシールするポストプレーなど引き出しの多さを感じさせた。ペイントエリアでの合わせにも積極的に呼応、自身が起点となる事が多く周りを動かす印象は少ないが、彼にボールが渡るよう仲間が積極的に動いてディフェンスの隙間に見事合わせるチームプレーも高く評価した。悪夢の初戦敗退から4ヶ月余り、しくじった思いを抱きながらこの日の敗戦を大いなる糧（かて）として日々練習に精進し、チーム自体も初戦から気を引き締めて勝利を重ね、第3シード・浜松開誠館との一戦に勝負を賭けたい。

併せて、別ブロック（左下）ではあるが、これほど才能のある選手に対して限られた時間で対応策を探究して試合で見事それを実践、好勝負を演じて殊勲の星を挙げ県ベスト16とシード権を勝ち取った浜名にも敬意と感謝を示し、今大会でのさらなる飛躍を祈りこの場でエールを送りたい。

このブロックの注目選手として、宮崎聖推、山口栄麻、太田啓斗、内田旺佑（菰山）、日高瑛仁、荒川栖翔、野口宗昭、小栗春澄（浜松開誠館）、杉澤陽向、高田颯馬、荒木悠斗、大槻瑛太、小林暁大、望月優太（富士宮東）、瀧石悠真、テトラナ夢和、王思義、谷口レイ（静岡サレジオ）、井瀧陽斗、高田遥生、斉藤風月、吉澤直輝、高橋祐輔、庄司敬楽（伊豆中央）、杉田竜哉、山本大翔、黒柳陸、高橋友護（浜松湖南）、大波遥斗（磐田農業）、永治昌大（掛川工業）、大塚悠真、庄田杏馬、小澤和人（下田）、石山詠士、齊藤千隼、小田紘也、鈴木蒼一郎、石野祐心、丸林諒太郎（静岡城北）、久住大樹（焼津中央）、山下颯汰、栗田航祐（袋井）、小沢咲弥、勝又聖永（知徳）、鈴木一瑠、海野永和、飯田大虎（清水西）、岡本凜太郎、中野遥真、多田玲介（藤枝西）、水口友翔、杉山楓芽、ヨコテカノン（遠江総合）、見崎玲央奈（清水南）、永野凱李、嵯峨煌希（横須賀）、白井瑞樹、富田悠真（掛川西）、花村知輝、杉本翔琉、高橋愛翔（清流館）などを挙げたい。

右下のブロックは、昨年の大会で準優勝、3年前同様「出場枠2」のワンチャンスを2度までも生かして全国に出場、県新人3位・県総体準優勝の浜松学院興誠と、一昨年のこの大会3位、以来どうしても県4強の厚い壁を突破出来ずにいるが充実した戦力は上位4強と比較しても全くひけを取らない沼津中央が準々決勝で相まみえる展開が予想される。両チームとも207cmの留学生を抱え、インサイドでの熾烈なマッチアップ合戦が勝敗の鍵を握る。

浜松学院興誠は昨年アドバンテージを生かして3年前同様第2代表として全国に出場、敗れたものの正智深谷との激闘は県代表として立派にその使命を果たした。今年に入り県新人3位・県総体準優勝、今大会全国出場は1枠、絶対に優勝して2年連続の全国出場を狙う。

昨年この大会で飛躍の兆しを見せた県内最高身長タイ・207cmオビオラチデンドウクリスティーンの成長には目を見張るばかりである。現役選手でウインターのコートでプレーした数少ない選手、その経験を新人戦・総体予選でも遺憾なく発揮、もはやこのチームになくてはならない重鎮である。長いウイングスパンをリバウンドだけではなくブロックショットでも生かせることが長所、昨年大会静岡学園戦でもワンマン速攻で一人旅の相手シューターがボールリリースする瞬間に身体を接触させることなく長いアームで遙か後方遠くから飛び込みのブロック、シューターが驚きのあまり表した鳩に豆鉄砲を食らった表情が今でも印象的である。一番のハイライトは東海総体・名古屋戦、奪った得点45点、同時に23リバウンド、そして9本のブロックショットを記録、惜しくも1ブロック足りず「トリプルダブル」を逃したが、驚愕の活躍を見せてくれた。課題を挙げるとしたら40分フル出場するスタミナ面であるが、本人がトレーニングでそれを克服することも当然ながら新たにナイジェリアからの留学生・200cmオラデジサミュエルオパイェミが加わり、クリスティーンを休ませたい時や直接戦術の確認をしたい時に代わりに起用出来ることが大きい。すでに総体予選ではお互いタイムシェアしながら使われていて常にコートに留学生が前提となったチーム作りが出来ることは心強い限りである。

そしてこのチームの高さは外国籍選手ばかりではない。195cm蘭部良介の存在がチームの強さを一段上のレベルまで押し上げている。昨年県予選はケガで欠場したが全国大会で復活し6得点、貴重な経験を積んで以後の大会での躍進につなげた。ハイライトは県総体で見せたダンクシュート、ゴール下でカメラを構えていた山口広報副委員長からもその迫力に圧倒されたとの報告を受けた。現在県内日本人高校生でダンクが出来るのは後藤（浜松開誠館）とこの選手だけであろう。来年のこの大会では昨年の国スポを通じて寝食を共にした福本（藤枝明誠）と注目No.1選手を分け合っているに違いない。チームを下支えする川原暖は玄人好みのいぶし銀、いつの間にかグッドポジションでボールミートする「通を唸（うな）らせる」プレーヤーで数字には表れにくいオフボール時の動きやスクリーンでチームを支える。工藤楓は昨年全国の舞台でプレーしたかげがえのない経験を今年1年かけて自身に還元しチームにもフィードバック、限られたプレイタイムの中でチームに波及効果を与える選手である。長谷川雄哉も東海総体2試合で途中出場、限られた時間で得点を挙げて今後のチャンスを広げた。今年の浜松学院



興誠の特徴は新入生に即戦力が揃っていることである。**佐々木真旺**は美濃加茂との東海総体で驚異の20得点、岐阜王者が慌てふためく様子は今でも印象深い。**井上薫**も入部即レギュラーを手にして県総体・東海総体全試合でスタメンを飾った。**古波蔵凛人・赤羽栄太郎**も東海国スポに出場、まさに「新戦力豊作の年」と言える。規格外の高さを誇る藤枝明誠に唯一互角以上に渡り合える平均身長181.4cmの戦力で10年ぶりの優勝を目指す。

沼津中央は東部王者で臨んだ県総体準々決勝で浜松商業と1点を争う激闘を演じ惜しくも2点差で敗れ4強を逃した。続く城南静岡戦もクロスゲームを1点差で落とししたが、翌日の浜松西戦では「らしさ」を見せて快勝、7位を確保した。長年高さでチームを支える留学生を擁する最後の大会となり、類まれなそのインサイドプレーを上手に活用したバスケットを展開したい。

県内最高身長207cm**カビブアティザカリファ**は対面で守る相手には正面からダンクで圧倒、中に入ればターゲットハンドを誇示しパームにボールを落とさせてそのままリストを使ってダンク、まさに空中権を支配したかのようなプレーを今大会も期待したい。順調に勝ち上がれば準々決勝で実現するクリスティーンとの207cm同士のド迫力留学生対決は見ものである。昨年来要所で指揮官に期待を込められて起用され続けた**渡辺碧波**は偉大なる大先輩・新井楽人（横浜B.C.）に生き写しのプレーを見せる技巧派、老獪なテクニックを見せたと思えば東部総体決勝で見せた無類の勝負強さでもチームを支える。**郷大輝**も前年からチームが苦境の立った状態で起用された経験が随所に生かされバスケットIQの高さを感じるプレーヤーである。**森田悠月**は2年連続で県選抜に選ばれた逸材、今年1年常時出場し不動のスターティングファイブに名を連ねる。その他にも、城南静岡戦18得点を挙げるなどスタートダッシュと連続得点が印象に残る**本袋大樹**、東海国スポにも出場した**平林存人**、今夏焼津市選抜としてモンゴル国・区選抜との親善試合にも出場した**金允紀**などの戦力で2年ぶりの4強を目指す。

通算10回の優勝を誇る**飛龍**は令和5年の大会で単独3位になって以来県上位から遠ざかっていたが、チームを一からリセット・リビルドした成果が徐々に順位に反映し始めて、県新人では中部新人準優勝の城南静岡を破り久々に県8強に名を連ねた。県総体ではその城南静岡の返り討ちに遭いベスト16止まりだったが、3年ぶりの県武道館が目の前に見えてきた印象を持つ。

頼れるキャプテン・**杉山瑞瑠**が飛龍に脈々と受け継がれる絶大なキャプテンシーでチームを牽引・鼓舞し続ける。それをシューター・**植木鳳雅**やフォワード・**内田瑛梧**、ガード陣の**清水獅王・村松聖夏**などが中心となり、指導者・キャプテンの期待に応える。今回非常に厳しい組み合わせとなったが5回戦で予想される浜松学院興誠を倒して県武道館への帰還を果たしたい。

静岡農業はこの大会で長年の活動の幕を下ろすことになる。令和6年度入学生を最後に新入部員の募集を停止、今回3年生6人で1試合でも多く試合を重ねて有終の美を飾るべく大会に臨む。県内に3校しかない農業高校の中でも拠点校として創立113年目、最近では令和2年度に県新人出場、ウインター予選でも直近10年で3回ベスト32入りを果たしている。中部総体で敗退後すぐにウインターまで6人で続けることを意思確認、並々ならぬ決意で「ラストウインター」に臨む。少ない人数で出来る練習メニューも限られている中で、一人ひとりの長所や短所を理解しお互いに補い合うことを約束事とする。主将・**海野魁斗**は鋭いドライブを武器に積極的にゴールへ向かい得点を重ねここに来て特に3Pの確率も向上、伝統校最後の主将として1試合でも多くその役割を担う不退転の決意を持つ。副主将・**風間優大**は海野を支えながらチームをまとめ、粘り強いディフェンスと安定したミドルシュートを武器に攻守双方でチームを支える。これまで少人数であることや部活の終焉が刻々と近づくことへの葛藤・ジレンマを抱えながら活動してきたはず、それでも仲間と積み重ねてきた経験やチームワークを大きな力に変えて個々が持てる能力を最大限に発揮し、粘り強い守りからリズムを作り得点を重ねるバスケットで1試合でも多く仲間とバスケットを楽しむ時間を延ばしたい。

このブロックの注目選手として、**大西万那**、**杉山来夢**、**齊藤秀平**、**松山聖汰**（駿河総合）、**佐藤愛琉**、**鴨川琉空**、**羽根田暖真**、**吉原輝**、**石井伯弥**、**森永侑都**（浜北西）、**笹川凌央**、**林奏汰**、**生倉逸平**（磐田西）、**五十嵐快晴**、**吉田光希**、**岡嶋玲**、**クロフォードマツト健心**、**トゥグルドウルタミルラン**（加藤学園園秀）、**勝亦惺也**、**長山惺**、**井原大智**、**諏訪部碧生**、**長嶋壮**、**植松唯斗**（沼津中央）、**市川陽太**、**高田蓮土**、**根本滂**、**大山流輝**、**市川陽太**、**坂本佳呂主**、**小牧玲**（浜松学院興誠）、**ヴィイワジャンイワゾ**、**サブランシャン**、**土屋懸**、**杉原凛遠**、**望月智詞**（誠恵）、**市川敦基**、**西崎勇吹**、**豊田瑞希**、**笹原翔流**、**大崎匠**（飛龍）、**増田大也**、**西山央甫**、**松浦響太郎**、**小野寺大**、**下村悠喜**、**小倉晴**（常葉大菊川）、**飯塚芯**、**八木敦聡希**、**近藤隼平**、**中村航也**、**宮島蓮**（島田工業）、**石川幸聖**、**中野真汰**、**星野健太**、**小田隼也**（日大三島）、**高橋快**、**森脩優那**、**金澤響**、**梶山暖琥**、**磯部歩夢**（静岡東）、**中野蒼太**、**五百旗頭光希**（清水東）、**野中颯人**、**鈴木理央**、**引地陸**、**市川日向**、**渡部倫太郎**（静岡市立）、**ウィリシジャンハツ**、**鈴木彪斗**、**中田輝音**（静岡大成）、**飯村湊太**、**大石航平**、**片岡弘輝**、**大塩湊都**（東海大静岡翔洋）、**松下航平**、**佐藤大介**（掛川東）、**永井陽大**、**伊池千宙**、**鈴木舜平**（磐田南）、**鈴木悠斗**、**鈴木悠真**（富士宮西）などを挙げたい。

女子

今大会も10連覇中、県内大会も29連覇まで伸ばし、全国総体でも日本航空石川とのオーバータイムに及ぶ痺（しび）れる展開で初戦を制し、そのまま昌平、鶴沼の強豪関東勢にも快勝し全国ベスト8に輝いた浜松開誠館中心の優勝争いになる。その無双女王を西部総体決勝で土俵際まで追い詰めた4大会連続東海ベスト8の浜松南と、常に安定した試合運びと昨年大会で見せ



た勝負強さを武器に挑む昨年準優勝・市立沼津の公立勢が王者に迫り、県総体4位から7位までの浜松学院興誠・沼津商業・藤枝順心・常葉大常葉の実力伯仲チームがメインコートでの勝利を目指しトップスリーに肉薄、さらには静岡東・磐田北・駿河総合・静岡商業・浜松聖星などの実力派チームに加え、県総体でも旋風を起こし今大会ノーシードながら台風の目となる磐田東がまずは県武道館を目指しさらなる上位を窺（うかが）う展開が予想される。

左上のブロックは、その実力が全国トップレベルであることを証明した浜松開誠館が大会11連覇を目指してメインコートに立つ絵図しか想像がつかない独走のブロック。その絶対王者に戦いを挑むために、県総体で磐田東・三島北という難敵を同日に連破してベスト8を勝ち取った静岡東と、同地区のライバルとして静岡東と幾多の激闘を繰り広げてきた県総体ベスト16の静岡商業が武道館前に勝敗を決する展開が予想される。

前人未到のウインター連覇数を10まで伸ばした**浜松開誠館**、実際のところ昨年は薄氷を踏む試合の連続で何とか連覇をつなげた印象が強かった。特に準決勝・浜松学院興誠戦では連覇が安定した令和以降全大会を通じて一番苦戦した試合となり、正直私もTV中継業務でベンチ裏にしながら慌てる王者の様子を目の当たりにし、まさかの事態も考えたほどである。今年に入り本来の強さが戻り、以前にも増して全体の完成度が上がった感触がある。その証拠に磐石の強さで県を制した直後の東海総体では見事準優勝、特に桜花学園戦では敗れたものの東海王者の突き放しにも応じず必死に喰らいつく試合で随所に「浜松開誠館らしさ」が見られた東海決勝に相応しい見ごたえと収穫のある試合であった。その成果が過去最高となる3勝を挙げての全国総体ベスト8につながったと言える。特に初戦から厳しい組み合わせとなった日本航空石川戦は序盤からリードを奪われる予想以上に苦しい展開を強いられ、一時は16点差まで離されるも時間を有効活用して追い上げ途中相手にタフショットを打たされながらも勝利への執念がそれを上回り延長へ、その後も追いつく手を振り切り劇的勝利を挙げた試合、第4Q後半から延長を経ての勝利の瞬間までの攻防を見ていた私は、多少展開は異なるが2021年東京オリンピック準々決勝・ベルギー戦奇跡の勝利を思い出し、牧田が3Pを決めて再三再四同点に追いついた瞬間は驚きと嬉しさのあまり目の前に起こったことが瞬時に理解出来ないほどであった。まさにパッサーの佐藤や垣内が町田瑠唯（富士通）に見え、牧田が林咲希（富士通）に見えた瞬間でもあった。大会を通じて尻上がりに調子が上向き、3回戦・鶴沼戦はチームの持ち味を余すことなく発揮できた会心の100点満点ゲームだった。

今大会女子随一の注目選手・**垣内優希奈**の魅力は多彩なオフェンスと強靱な脚力、そして攻守に渡って見せるクイックネスに尽きる。この選手は何をするにしてもプレーの展開が早い。近くで感知した情報に反応して速くスタートを切る抜群のセンスを持ち、マークマンはプレーの予測が追いつかず2歩も3歩も対応が遅れる始末、変幻自在のドライブや高精度の3Pで得点を奪い、切り返しのディフェンスでは攻撃の芽をいち早く摘み高いリスクマネジメント能力を持つ非の打ちどころのない選手である。唯一の心配は脱臼経験のある肩、見る側も痛々しい黒のテーピングを巻いての出場となるが怪我にも試合にも負けることなく打ち勝って欲しい。昨年9月に右膝前十字靭帯断裂の大怪我を負い長期欠場を余儀なくされた**牧田知紘**の回復力とそれに至るまで不撓不屈の努力、精神力には敬服せずにはいられない。一切弱音を吐かず細かいことに一喜一憂せず常に笑顔を保ち、仲間の不安を一掃する姿勢はチームにどれほどの好影響を与えたか計り知れない。黙々とリハビリに励み驚異的な回復を見せて総体予選で不死鳥のように復活、まだ痛みと不安が残る中でそれを仲間に察知されないだけのプレーをコート上で見事表現した。その復活劇の真骨頂は紛れもなく日本航空石川戦、留学生を中心とした相手の高さに大苦戦、第最大16点という予想すらしなかった大差をつけられ誰もが万事休す、と思った瞬間彼女の連続3Pがさく裂、じわりじわりと追い上げて最後の3点がなかなか縮まらない窮地も2度に渡って度胸満点の3Pを決め、延長戦でも勝ち越しのジャンパーと勝利を決定づけるレイアップを決めるなどまさに「ゾーンに入った活躍」は冒頭に記した通りである。彼女のこの試合での活躍なくして初の全国総体ベスト8は成し得なかった。スーパープレーだけでなくどんなピンチや修羅場でもつらい顔一つせず常に笑顔を保ち、絶やさない「マキタスマイル」にチームは幾度となく救われたはず、粘り強いチームを目指す浜松開誠館の真の強さが彼女自身に象徴されている。**小林陽菜乃**と言えば試合中のハードワーク、とにかく一所懸命に汗をかきチームに貢献することだけを考えるモデル・オブ・ザ・プレーヤー、ランやディフェンス、球際など口で言うよりも行うことが難しい基礎基本のプレーを164cmという決して大柄とは言えない身体で遂行する。トップ位置からもウイングにボールを預けて巧みなステップでマークマンを幻惑しバックカット、味方のパスを見事に受け得点につなげるプレーも絶品である。この「3年生トリオ」の活躍とバスケットに向かう姿勢が今年の浜松開誠館のすべてを物語っている。

下級生に目を移すと、全国総体2回戦以降3試合で3P12本を含む48得点、皇后杯予選・静岡大学戦でも3P6本を含む22得点を叩き出すなど外を中心に卓越した得点能力を持つ**古田光咲**、176cmの長身を利したポストプレーで昨年来ペイントエリアを守る**舟久保汐**、ポストからキックアウトして外から3Pも放つ**古屋和葵**、日本航空石川戦・エントリー変更でベンチ入りした千載一遇のチャンスに途中起用され、完全 mismatches の留学生相手に体を張って必死にディフェンスして相手を狼狽させて試合の流れとリズムを確実に自軍に引き寄せた功績が大きい**齋藤プレガマリアム**、チーム史上最高身長180cmでアウトサイド陣が安心して外から打てるようゴール下を支配しセカンドチャンスを確実にものにする**谷村帆香**、味方をオポジットに呼び込み電光石火のノールックを繰り出し得点を導き出す**竹田花梨**、線の細さを精巧なドリブルワークとスピードでカバーし着実に成長の跡が見える努力家・**小長井優空**、そしてU12時代はその世代の中心選手として静岡県そして全国の舞台でも活躍、3年間県外での武者修行を経て静岡県に凱旋しさらに磨きのかかったプレーを随所に見せる**佐藤ひまり**など全国トップレベルの層の厚い戦力を武器に、粘り強い守備からスピーディーで多彩なオフェンスに繋ぐバスケットで県制覇は絶対条件、冬の全国制覇をも狙う。



県総体8位の**静岡東**は毎年新チームでこの大会に臨み、令和5年には初めて県武道館でのプレーという大願成就を果たした。今年は屋台骨の伊藤が3年生で唯一残り、総体予選でも活躍した下級生たちと調和のとれたバスケットを見せて3年ぶりの県武道館を目指す。

伊藤葵は言わずと知れた3Pシューター、パスを受けて瞬時に打つ3Pからディープスリーまで打つアウトサイドのプロフェッショナル、よもやの大苦戦を強いられた県総体・磐田東戦でも最後まで得点に絡み続けたのも彼女であった。その不退転の決意を背中から感じ取る後輩たち、エコパでも出場機会を手にした**長谷川凛**を中心に、総体予選でも大活躍した**諸田莉星・世古滯夏・宮内香帆**の「1年生トリオ」でライバル・静岡商業に勝って3年ぶりの県武道館進出を決めて、全国8強の県王者に挑む。

静岡商業は一昨年この大会でベスト8に入り9年ぶりに県武道館のコートでプレーした。県総体では沼津商業と付かず離れずの接戦を演じたが最後に力尽きベスト16に終わった。今回は完全新チームでの出場、新体制の始動が早く県1部リーグなどの実戦を現状メンバーで経験して大会に臨めるのがアドバンテージである。

沼津商業戦途中出場し得点を挙げた**望月杏詩**と、スクリーナーになる際に相手にファイトオーバーさせない密着した間合いと腰を落として重心を安定させる技術、そしてユーザーにもブラッシングさせるよう誘導し、最短距離を通して得点を導き出すお膳立てが最高に上手い**文谷柚華**を中心としたフレッシュな戦力で、中部総体3位決定戦・3点差で逆転負けを喫した因縁のライバルにリベンジを果たして2年ぶりの県武道館を目指す。

このブロックの**磐田北**にも注目したい。西部総体では浜松市立・浜松商業を破って近年最高の5位、続く県総体でも昨年県8位の清水南を破り平成19年度以来19年ぶりのベスト16入りを果たした。総体予選は6勝2敗、敗れた相手は県覇者の浜松開誠館と県3位の市立沼津のみ、潜在的な実力は内枠シードと比較しても遜色ない。加えて長年主力を担ったキャリア抜群の3年生たちがそのまま残るのも大きな強みである。

主力となるのは県を代表するオールラウンダー・**川上奈子**。動画や実際の試合で何度か彼女のプレーを見てその研ぎ澄まされた一挙手一投足に魅了され、さらには抜群のバスケットIQを持ち広い視野から放たれる合わせのスキップパスや躊躇なく果敢に仕掛けるドライブ、相手との間合いを緻密に計算して放たれる3Pなどまさにチームの心臓となって躍動する姿に今回大会プログラム裏表紙にも大抜擢した。市立沼津戦では蓄積された疲労のためか途中脚がつり一時コートアウトを余儀なくされたが、トレーナーや仲間のケアの甲斐あってすぐにコートに戻り心身のタフさと責任感の強さも見せた。試合後敗戦の悔しさのあまり人目をはばからず号泣する姿がいまだに私の脳裏に残り、ウインターへ賭ける想いが人一倍強いことは容易に想像がつく。会場で多くの方々にその華麗なプレーを見てもらいたいトップアスリートと褒め称えたい。その川上のプレーを一段と際立てるのが司令塔・**増井日南乃**。この選手の精錬されたハンドリングは一見の価値がある。常にボールの所在を意識し、相手スティールも警戒しながら視野は一步前に落とし、スクリーンを活用したハンドオフパスや時にはワンハンドパスでペイントエリアにフラッシュしてきた仲間にボールを落として得点を導き出し、時には自らドライブや3Pをセレクトする。ハンドリングやパスへの嗅覚に特化すれば県内では堀田明里（常葉大常葉）と双壁である。その他にも、市立沼津戦3P2本を含む16得点を挙げた主将・**佐藤あや香**や清水南戦・第4Q4点差で追い上げられた場面でファウルレシーブし直後のフリースローを冷静に決めて勝利を手繰り寄せた**樋口凛優**、常に広めのシュートエリアを確保し効果的な3Pでの加点が相手にジャブやボディブローのように効きってくる**小里陽詩**の不動の3年生スタメン勢で、母校の大先輩である**浅井宏子**監督の指揮のもと、県武道館に進むためには常勝王者に勝たなければならない非常に苦しい組み合わせではあるが、あくまで目標は初の県武道館進出であることは間違いない。

このブロックの注目選手として、**鈴木千夏**、**半田陽菜乃**、**片岡美沙**、**黒川莉音**、**佐藤みなみ**、**前川結望**、**竹田花梨**、**山田華鈴**（浜松開誠館）、**土屋惺愛**、**杉山暖那**、**柳川心花**、**田崎仁菜**（静岡東）、**文谷心美**、**戸崎陽菜**（静岡商業）、**本間詩季**、**朝日都**、**石田織生**、**長谷川桃寧**（掛川東）、**湊谷瑛瑠**、**東海林優空**、**内山なつみ**、**勝又心優**、**芹沢美空**（御殿場南）、**山下紗羅**、**石崎梓乃**（聖隷クリストファー）、**糠谷晴子**、**前田莉琴**、**中村愛優奈**、**鈴木夢羅**、**青島紗和**（島田商業）、**八木向日葵**、**佐野柚季**（島田）、**佐藤ひなた**、**佐藤わかな**、**秋田谷誇花**、**日吉希心**、**山本雪那**、**唐島田華**、**齋藤美桜**（飛龍）、**増田向日葵**、**鈴木千尋**、**岡部美空**、**川口瑠楓**、**佐野風紗**、**砂川華莉奈**、**加藤栖那**（浜松東）、**日吉伶来**、**大坂優来**、**木村瑠良**、**稲彩葉**、**中村はなの**、**小畑ななみ**（加藤学園）、**萩原咲菜**、**鈴木寧音**、**佐々木花**、**大門由依**、**鈴木果歩**、**勢万奏乃**、**鈴木莉子**、**杉山妃菜**（三島南）、**平野紅杏**（焼津中央）、**鈴木麻由佳**、**松浦実**、**藤本理瑚**、**小長谷泉水**（静岡）、**光森愛奈**、**井芹美稀菜**（富士）、**山梨百世**、**増井紅葉**（清水東）、**井出あくあ**、**八木萌愛**、**渡邊彩良**（富士宮東）、**小林さくら**、**田中美莉**、**塚本蘭**（清流館）、**村上愛奈**、**杉本閑里**、**永田侑那**、**栗下さつき**（磐田北）などを挙げたい。

左下のブロックは、男子同様一番熾烈で実力が拮抗している同士の戦いとなる。5年連続で県総体4強以上を続け、今年の県新人・県総体ともに4位と安定した実力が魅力の浜松学院興誠と、県総体5決Tで常葉大常葉・藤枝順心の中部勢に対し薄氷を踏む戦いながらも共に僅差で破り5位を勝ち取った沼津商業が準々決勝で対戦する公算が高い。この両チーム、一昨年の大会でも準々決勝で対戦しその時は三浦咲というラッキーガールの出現で沼津商業が大逆転勝利を飾り初のメインコート出場を果たしたが、今回は勝利の女神がどちらに微笑むのか予想も想像もつかない戦いとなる。

浜松学院興誠は昨年の大会で常葉大常葉を破り進んだ準決勝で当時大会9連覇中の浜松開誠館と対戦、最終Q残り3分まで1点



差で追いつき息も持たせぬ攻防を展開、最終的には8点差で惜敗して3位となったが点差以上に近年県大会で女王がここまで追い詰められた試合は記憶にない。その強さが県新人・県総体ともに4位という成績に象徴されている。県総体を最後に袴田千愛、杉浦心音、榊原碧など一部の3年生は引退したが、各学年に鍵となる選手を有して戦力ダウンは全く感じられない。

エース・**本間輝星**の魅力は圧倒的な速さ、その名の如くシャイニングスターならぬスピードスター、目にも留まらぬ早業でコート駆け巡ってチームに勝利をもたらす。特に苦戦が予想された県総体での中部王者・藤枝順心戦では後半スピードで相手をきりきり舞いにしてから連続で決めた3Pは圧巻、ロースコアゲームとなった県総体・市立沼津戦でも13得点を決め、敗れはしたが膠着した展開を打破する突破口にもなった。**ワネケジナディア羽樹**は何といっても強靱なフィジカルから繰り出される力強いゴール下のプレーと執念でルーズボールを奪い取るタフネスで貢献、40分戦い続けられるスタミナにも太鼓判を押したい。県総体準決勝で出場機会を得た2年生・**向坂翼**は主力の引退で空いたレギュラーの座を奪うべく下級生を含めた熾烈な定位置争いに挑む。1年生に目を移すと、**江坂椎果**と**宮地梓**は県選抜として東海国スポに出場し準優勝に貢献、大会期間中に開催される青森国スポに出場しさらに技を磨きあげて今大会に凱旋するだろう。**長谷川増華**もエコパでの準決勝で4得点、この試合は江坂6得点、宮地7得点と王者相手に1年生が飛躍した試合としても印象深い。2年連続メインコートで女王と対戦するためには準々決勝で予想される沼津商業戦に何としても勝たなければならない。先述の通り2年前以上の死闘となること必至である。

一昨年大会3位の**沼津商業**は県総体準々決勝で同地区のライバル・市立沼津に惜敗したものの、続くエコパ決勝で常葉大常葉・藤枝順心戦どちらも目まぐるしく攻防が入れ替わるシーソーゲームを続けて制し2年ぶりの県5位を勝ち取りウインターに向けて好位置で締めくくった。両試合とも沼津商業に深く根付く粘り強さと勝負強さが後半一気に爆発したような試合、勝負際におけるあの強さは対戦相手もう二度と勝てないのではと錯覚するレベルである。

その強さを植え付けているのは**齋藤さゆり**監督の情熱あふれる指導力と指導者と選手の潤滑油の役割を果たしながら指揮官が抱くバスケット観と理想像を自らコートで実践する**田口心優**の絶大なる統率力の賜物と言える。泥臭いプレーを率先して行い接触を厭わずゴール下に猪突猛進する姿を見れば心を動かされない選手はいない。数字に如実に表れる貢献度とは言えないが彼女がいなければ今年のこの地位は絶対にありえなかった。止まらない得点力で支えるのは**稲田千優**、とにかくこの選手のシュートは要所で憎いほどよく決まり相手を意気消沈どころか戦意喪失まで追い込む。特に常葉大常葉戦では30得点、藤枝順心戦16得点、その中に3P4本も含まれ、170cmの長身を生かしたダイナミックなプレーが魅力の**河野麻穂**とともに、最後の最後の土壇場で試合を決めるのはこの二人、という勝ちパターンを今年何度見ただろうか。身長は158cm、山椒は小粒だがピリッと辛い選手であると絶賛したい。その他、稲田千優同様内外から正確にシュートを決める**稲田千愛**や入部早々レギュラーに抜擢され十分に大役を果たし続けている**田口結愛**、そして指揮官の期待を背負ってシビアな場面で起用されても重責を果たす**加藤和奏・渡邊紅玲羽・熊谷結月**など徹底的に鍛え抜かれた堅いディフェンスと終盤でもスピードが落ちないブレイクを駆使したバスケットで2年ぶりのメインコートが手の届くところまで来ている。準々決勝では一昨年と同一カード・浜松学院興誠戦が予想される。前回は終始相手を追いかける苦しい転換の中でも起死回生のシュートが次々に決まり大逆転で勝利を勝ち取ったが今回も前回以上のデットヒートは避けられない。

創部12年で3回の準優勝を誇る**駿河総合**も侮れない。大会を重ねるたびに着実に順位を上げ続け、今年は県新人・県総体ともに16強入り、特に県総体・浜松商業戦は実力伯仲のクロスゲームとなり、一進一退の攻防を繰り返す中で個人技とチームプレーを効果的に織り交ぜながら最後まで脚力の落ちないバスケットで1点差ゲームを制した。戦力も県総体から誰一人欠けることなく、県立高校の現役指導者で唯一全国を経験（3回）している名将・**立野幹夫**監督の厳しい指導で鍛えに鍛え抜かれた粒ぞろいのメンバーで5年ぶりの県武道館進出を狙う。

エース・**岸山愛海**は堅実なプレーが特徴、以前は慎重に慎重を期して石橋を叩いても渡らないところもあったが、積極性が随所に見られるようになりプレーのクオリティーもプレーヤーとしての資質もワンランク上がった。得点源は**小澤彩葉**と**伴野結奈**、ともに内外から状況に応じた得点の導き出し方を知り尽くすクレバーな選手、岸山の「技」と小澤・伴野の「動」がチームにシナジー（相乗）効果を生み出している。その他にも、コート上で見せるスピードと躍動感が持ち味の**青野愛琉**、パス出しへの判断力に秀でる**増田百萌那**、そして入部直後から指揮官の積極起用に応え早々にレギュラーを勝ち取った**岩堀莉愛**などのメンバーで着実に勝ち上がり、昨年敗れた沼津商業との対戦が予想される県武道館切符を賭けた戦いに何としても勝ち切りたい。

伊豆伊東は2年ぶりの出場、伊東と伊東商業が合併し令和5年学校創立の翌年に初出場を果たしたが昨年は1、2年生合わせて在籍4人で出場できず、その後の東部新人・総体ともに裾野との合同チームで出場、今年度新入生が4人入部して8人で今大会にエントリー、念願の単独出場を果たした。唯一の3年生・**石井沙奈**は下級生のためにも最後の試合をともに戦いたいという切なる想いで今大会への出場を決意、合同チームを経て磨きをかけたドライブとシュート力を武器にチームの中心を担う。2年生・**藤木百花**は豊富な運動量で粘り強い守備が武器、執拗なディフェンスからのパスカットでチームに勢いを与える。同じく2年生・**岡野紗季**は体を張ったリバウンドが取り柄、サイズが無い分思い切ってボールを奪いに行く。**村田英玲奈**は持ち前の負けん気で期待以上に実力を伸ばし現在は常時スタメンに名を連ねる。その他経験者も含めた新戦力を加え、上背はないがパスランを中心に粘り続け走り切るバスケットで創部以来大会初勝利を狙う。



松崎・稲取は昨年それぞれ単独チームで参加したが、今年は合同チームで出場する。男子の項でも記載した通り、両校は令和10年度から下田を含めた賀茂地区3校で同じ高校になる予定、松崎5人・稲取5人と両チームとも単独出場できる人数であるが、今回は将来的な学校再編に伴う合同チームとして出場する。**稲取**は昨年のウインター予選で3年生が引退し部員が3人となり新人戦には出場できず、東部総体は今回同様松崎との合同チームで出場した。**松崎**は昨年5人ギリギリでエントリー、2回戦で駿河総合と対戦し0-231で完封負けしたものの選手たちは得点を取るために40分間果敢に立ち向かって走り続け、指揮官も試合中1度たりともベンチ座ることなく立ち続けながら指示を出し、最後の最後は1点取るためにタイムアウトを取り選手たちもコーチの作戦に頷きながら相手の堅いディフェンスを突破するために必死でボールを前に運び続け、最後までその闘志は衰えることがなかった。相手の駿河総合も全く手を緩めることなく、勝敗・点差を抜きにした両チームの意地と執念がぶつかり合う緊迫した戦いは決勝戦に勝るとも劣らない価値のある試合となり、会場で観戦した私も涙腺を緩めずにはいられなかった。数多くバスケの試合を見てきたが、その中でも1、2を争う感動的な珠玉の名勝負と私は評したい。

両校のエース中心に1on1をメインにしながら周りを生かすプレーが特徴、全員で連携し攻めるバスケットを目指す。普段は各校で練習し、月に数回程度合同練習を行うのがルーティン、キャプテンの**井出美涼**（松崎）は力強く素早いドライブが武器で攻撃の要としてチームを支え、**齋藤蘭奈**（稲取）は優れたボール感覚を生かした安定したプレーに加え常に周囲の状況を把握する広い視野を持つ。目指す目標は合同結成初勝利、今回は内容以上に結果を求めていく。

このブロックの**浜松学芸**はなんと10年ぶりの出場となる。**静岡雙葉**・伊豆伊東・藤枝北・浜松江之島のように2、3年休止・休部ののちに復活出場という話は時折話題にもなるが、まさに十年一昔、これだけロングスパンを経ての復活劇は聞いたことがない。学校は信愛学園の校名で音楽教育を主体とした女子校として独自色を発揮、平成8年に男女共学となり浜松学芸に改称して進学指導にも力を入れている高校、女子バスケ部も長く強豪校として鳴らし、平成7年・9年・16年にはこの大会で県ベスト8の実績を残している。その後部員数の確保に苦しみ平成28年度を最後に活動停止していたが令和6年度に同好会として再興、昨年度部活動に昇格し西部新人では勝利も挙げた。今回1年3人、2年3人、計6人で10年ぶりに帰還をしたことは喜ばしい限りである。以前男子を指揮し県大会出場実績もある**伊藤守彦**監督が就任、総体予選で第一線を退いた先輩たちも受験準備の合間を見て胸を貸して後輩の育成に貢献していると聞く。主将・**吉岡虹来**は2年生唯一のバスケ経験者で仲間のことを常に気遣える優しさと手本となる技術を持つ選手、**安里美玲**は高い個人技で他選手のフォローも出来る1年生、**縣美咲**は状況判断が的確でチームの得点源となる選手である。「好きこそものの上手なれ」同好会から始動したバスケ大好き選手達が出場経験を重ねる中で成長していく姿を見守っていききたい。

このブロックの注目選手として、**緒方智咲**、**山城心春**、**原崎瑠依**、**一ノ瀬未莉**、**和田紗楽**、**大石咲彩**、**伏見夢月**、**講神りん**（駿河総合）、**細野楓花**、**篠原未桜**、**大井湖晴**（沼津商業）、**今村樹里愛**、**小根山翠月**、**山口些々**、**戸波亜子**、**田中ひかり**（浜松学院興誠）、**鈴木沙羅**、**森陽奈子**、**河合咲音**、**多々良心優**、**繁田春亜**、**横山舞音**、**原田美羽**、**佐野結菜**（東海大静岡翔洋）、**浅田海**、**五十嵐小梅**、**春川姫香**、**前田うらら**、**清優香**、**長澤海音**、**深瀬ゆり**（沼津中央）、**天野葉菜乃**、**遠藤ひまわり**、**南都香咲**、**山田空奈**、**花房瑠華**（伊豆中央）、**笠井菜月**、**増田みつぎ**、**近野愛芽**（静岡学園）、**朝間楓**、**堤優奈**、**下溝奈緒**（浜松北）、**奥村真帆**、**村木陽菜**、**小杉理瑚**（浜松西）、**湯川桃**（静岡サレジオ）、**松島花玲**、**西尾絢音**（小笠）、**中村姫まり**（静岡雙葉）、**杉山叶**（静岡西）などを挙げたい。

右上のブロックは、昨年のこの大会・米内心菜の大活躍で浜松南・藤枝順心に連勝、決勝でも浜松開誠館相手に9点差の好ゲームを演じ、県新人・県総体ともに3位に入り東海大会にも出場した市立沼津の安定感が頭一つ抜けている。それを各学年にバランスよく戦力が整い、特に長身選手を複数擁しペイントエリアでの高さのバスケに一日の長を感じさせる藤枝順心が追いかける。準々決勝で実現すれば昨年の準決勝と同一カード、その時は市立沼津が圧勝しているが今年の藤枝順心は高さのレベルが違い、昨年のデータをそのまま鵜呑みにはできない。

市立沼津は好不調の波が少ない安定したバスケットが特徴、この大会も令和に入り過去7回行われたが、一度もメインコート、つまり4強を逃していない。これは男女合わせても藤枝明誠・浜松開誠館の王者勢と市立沼津のみの偉業である。今回岩川恵里花、塩川環菜などの3年生の一部は引退したが、残った3年生と下級生がバランスよくポジションを埋めて記録の継続はもちろん、その次の目標として2年連続の決勝進出、そして16年ぶりの優勝・全国を目指す。

中心は上級生の岩田と野崎。昨年U18県協会優秀選手を受賞した**岩田真奈**は一昨年来第一線で起用され続け試合を重ねるたびにスキルアップするテクニシャン、瞬時になされる適格な判断力により司令塔として十分な役割を果たし、チームがその時点で一番力を発揮できる勝利の方程式をコート上のプレーヤーに伝達し試合を勝ちパターンに持く万能選手、勝負所での得点源でもありディフェンスの要でもある。最後までもつれにもつれた東海総体・星城戦では敗れたものの3P3本を含む23得点12リバウンドのダブルダブルを達成、今大会でもチームの命運を託された正真正銘の勝利請負人である。**野崎芽依**は広い肩幅と鍛え抜かれた上半身の強さを生かしたプレーでゴール下の守護神として主にディフェンスでの貢献に目を奪われる。リバウンドは常に好位置をキープしながら柔軟な膝を使って高く跳んでセカンドチャンスにつなげる。鮮やかな逆転劇で東海総体を勝ち取った浜松学院興誠戦は彼女が第4Qに決めた3本のシュートが試合の勝負を分けたと言える。オフェンス時のドリブルワークにも洗練された技術を感じさせる。

下級生に目を移すと、**土橋莉空**は入部以来指揮官の期待に応え続け昨年は国スポでも活躍、今年に入ってからさらに目を見張る



著しい成長を続け来年の今頃は静岡県を代表するプレーヤーになっていると私は強く確信する。前回の大会展望で数字に表れにくいフィードバック（EFF/貢献度）の高さを取り上げ「ゴーストスタッツ」と称して功績を褒めたが、県総体では積極的にスティール・ブロックに八面六臂の大活躍、特に低い姿勢で下がりながらのディフェンスを仕掛けながら鋭いステップでボールマンの意表を突いてボールを奪い一気にゴールに駆け込むシーンを見て成長過程での完成度の高さを実感した。ゴール下でもチャンスと見ればボールをさばくだけでなく自身が相手に一度バンプしてシュートに持ち込む積極性が出てきて今大会ではさらに一皮むけたプレーに今から心が躍る。**清水希**は今年になって彗星の如く現われた救世主、浜松学院興誠戦でも19得点、星城戦では岩田とともに40分フル出場して3P3本を含む21得点を挙げた急成長のスコアラー、アピールポイントでもある飛び込みのリバウンドにも力強さが出てきた。**奥田結愛**は入部早々にスタメンを獲得し総体予選・東海総体全試合でスタメン出場、星城戦でも37分のプレイングタイムを与えられ指揮官が近未来のエースとして嘱望する気持ちが伝わってくる大型ルーキー、東海国スポにも選ばれ今秋の青森国スポにも出場して遅（たくま）しさを増して県予選のコートに戻ってくるだろう。

どの学年にもバランスよく中心選手が配置され、粘り強く守り切ってリバウンド争いを制してブレイクに持ち込み、ハーフコートにおいては足を使ったパスランで攻撃のリズムを作りドライブや絶妙な合わせを創り出す市沼伝統のバスケットで、まずは浜松南を倒して決勝へ、そしてそのまま一気に勝ち続け昨年9点差で掴めなかった優勝という夢の続きを叶えたい。

藤枝順心は昨年準々決勝で浜松商業を破り6年ぶりのメインコートに到達、準決勝では市立沼津に敗れたが久々に優勝戦線に顔を出す殊勲の結果となった。新チームとなった県新人は7位、中部予選で優勝し一気に東海総体出場の野望を抱いた県総体では準々決勝で浜松学院興誠に敗れてまわった5決Tでは静岡東には勝ったもののケガで富田を欠いた沼津商業戦で接戦を落とし6位に終わった。今回は順調に勝ち進めば準々決勝で市立沼津との再戦となる。この両チームは県新人でもブロック決勝で対戦、わずか4点差で市立沼津が勝ち上がり勢いそのまま東海新人出場も手にした。今回は背水の陣、万難を排して市立沼津との戦いを制し弾みをつけて一気に決勝まで辿り着きたい。

今年の特徴は県内最高身長181cm**富田良奈**が加わり高さに厚みが出たこと。ポストプレーやリバウンド、戦場と化すゴール下での陣取り合戦だけでなく最大の魅力は富田が「走れるセンター」であることである。縦のラリーにも遅れることなく加わり試合後半になってもスピードが落ちることもない。国スポにも出場予定で全国の強豪と対峙することによりますます磨かれて今大会を迎えるに違いない。大黒柱の**石田妃菜野**はポストプレーにテクニックを感じる。ハイポストのエルボー位置からどんな相手にも物怖じすることなく果敢に挑む1on1で得点を重ねる。**小池果寿**は広い肩幅を生かしての体を張ったプレーだけでなく、アウトサイドどこからでも決められる3Pが魅力、エコパ決戦2試合で計10本、敵の注意が外に散ると意表をついてドライブを仕掛ける仕事人である。ボールを持てばパスでもドライブでもジャンパーでもどんな手段でも得点につなげられるのが**松村晏奈**、**武田奏美**は入部直後から期待を込められレギュラーで起用され、ベースラインドライブを切り札に攻撃的なバスケットを見せる。個々がバランスよく個人技で攻めながらも調和のとれた攻守を見せるのがこのチーム最大の武器、7年連続4強を続ける市立沼津は難敵中の難敵、特に毎年見せるウインターでの市立沼津の強さは1年の集大成における完成度の高さを実証している。その難敵相手に「身長の高さ」というバスケットにおける一番の優位性を得た戦力で戦いに挑む。

磐田東が今大会のダークホースであることは誰が見ても明らかである。西部総体では早々に初の県総体出場を決めたあと、浜松南・浜松商業・浜松市立に3連敗し8位、県上位校の厚い壁に跳ね返されたとともに連戦や試合終盤でのスタミナ面での課題も残す結果となった。しかしながら県総体ではその点をきちんと修正、中部3位・静岡東との1回戦では一時8点差のリードを許すも怒涛の攻撃で追い上げ最終Qで2点差まで迫ったが、最後の最後で力尽き惜しくも敗れたがアップセットの予感を漂わせ会場を大いに沸かし、大会最高試合の呼び声高い一戦となった。今回はノーシード・フリー抽選での組み合わせ、どのチームも早い段階でこのチームとの対戦を避けたいと感じていることは間違いない。監督は言わずと知れた静岡県が全国に誇る名将・**小前宏史**、常葉学園（常葉大常葉）を率いてウインター県予選を制すること16回、全国出場通算38回、ウインター通算25勝、そして何よりも平成14年度に成し遂げたインターハイとウインター優勝の全国二冠は静岡県高校バスケット界では唯一の偉業、今後も出ないであろう不滅の金字塔である。磐田東監督に着任して3年、手塩にかけて育てた子飼いの選手が全学年に揃い戦力充実、その集大成をこの大会で誓う。

エースの**安田李愛瑠**は中学時代弥富北で全中、高校でも星城でウインターに出場、今回出場選手の中で浜松開誠館の選手を除けば唯一ウインターの檯舞台を踏んでいる選手である。転校による充電期間を経て最後のウインターに臨む今大会、彼女の特徴はスキルフルな1on1に尽きる。見ている者を魅了し虜（とりこ）にするバスケットが持ち味、これを個人技という言葉で片づけることなかれ、一つ一つのプレーはすべて勝利のための延長上にあり、仲間を生かすプレーと共にここぞという時には自身のテクニックとメンタルを強く信じ得点を重ね勝利に向かって勇往邁進する。30点を叩き出した静岡東戦でも鬼気迫る思いで攻め続けた最終盤はすべて彼女の得点、点を積み重ねないと勝てないバスケットの競技性と宿命を誰よりも心得てプレーをしている選手である。チームメイトもそれを十分に心得ていて静岡東戦では勝負所では必死に彼女にボールを集めてゴールアタック出来るスペースを生み出す連携を見せた。ワンマンショーという解釈ではなくチームが勝利という究極の目標に向かって心をつににした結晶だと私は理解する。**星野千尋**はたんぼぼクラブ時代にJr. ウインターを経験、速攻からのレイアップや五月雨式にゴールネットを射抜く3Pが持ち味、静岡東戦でも県大会デビュー即スタメンというプレッシャーの中でも3P4本を含む20得点、キャリアが成せる業と言える活躍を見せた。その他にも、スピードと走力そしてゴール下のプレーで貢献する**松下月希乃**、チーム一の高身長を生かし脚力を使ったプレーでも成長の跡が見える170cm**村田来夏**、天賦の才能とも言えるパスワークは一級品・**中島ゆい**、精錬されたボールハンドリングを見せるポイントガード・**関本朱衣**、脚力を生かしたプレーで



今後の伸びしろに期待したい**高橋海結**など県上位と比べても遜色ない戦力、予想される**藤枝順心・市立沼津**を連破し大会史上初、ノーシードから一気にメインコートを狙う。

藤枝北は3年ぶりの出場。3年前は2勝してベスト32に達したがその後人数不足で活動を停止、部員たちは男バスマネを務めたり他校との合同チームなどを模索しながら残った2人で個人練習を行ってきたが昨年度は新入部員0となり活動を休止、まさに廃部の危機であったが3年生になった2人の部員が年度当初の部活紹介でバスケの楽しさを強調し体験入部等を通して8人が入部、総体予選にはエントリーできなかったが今回10人の大所帯で3年ぶりの公式戦そして全員がウインター初出場で大会に臨む。冬の時代を耐え抜いた3年生を中心に学年の分け隔てなく互いの良かったところを誉めあうポジティブシンキングが特徴、3年生が指導者のビジョンに基づいた練習メニューを作成し下級生を指導する生徒主体の活動を行い、対面練習時には課題や改善点を個々が皆の前で挙げて課題を共有するスタイルを主流とする。普段の練習ではファンダメンタルを中心に指導者から学んだセットプレーの復習をするなど各自の課題を自覚しながら練習に励んでいる。当然実戦経験に乏しく、スピードや連携などまだまだ課題は山積みではあるが実践を重ねるなかで徐々に改善することを目指す。キャプテン・**長原珠月**は165cmというチーム一の長身を生かしたポイントゲッターとして活躍、明朗快活な性格も含めて誰もが一目置くリーダーでチームの要でもある。副主将の**栗田奈南**は、技術力が高く守備範囲が非常に広い選手、状況判断が的確でアシストパスも自分での得点も出来る選手、長原とともに後輩からも慕われる人間性も魅力のひとつである。先輩に鍛えられた後輩たちの力を借りながら食欲さを前面に出して3年前同様ベスト32を目指して欲しい。

浜松江之島も3年ぶりの出場、しかしこのチームは復活した他チームと異なる事情がある。生徒数の減少等により令和9年度末で活動を停止することが決まっており来年の総体予選が最後の公式戦となる予定で今大会が実質最後のウインターとなる。慢性的な部員不足に悩まされ毎年3学年が揃う総体予選には出場できてもウインター予選や新人戦には参加できない時期が続いた。今年5人の新入部員を迎え、2年生3人の「最後までこの仲間たちと続けたい」という強い決意・総意から今大会への出場を決意した。少ない人数だからこそ一人ひとりが自らの役割を明確にし、チームのために何ができるかを考えながらプレーすることを大切に、個々がそれぞれ与えられた役割を果たし一丸となって勝利に向い貢献出来ることが強み、角谷主将を中心に全員が持ち味を発揮しながら得点力につなげるバスケで粘り強く最後まで戦い抜く。

角谷優葉は紛れもなくチームの支柱であり、攻守双方で活躍するオールラウンダー。高い運動能力を活かしたドライブと再現性の高いシュートが持ち味、苦しい場面でもチームを引っ張る存在として今大会でもキャリアハイの活躍を期待する。**野中世羽**は鋭いドライブと積極的なパスカットが持ち味で、攻守のキープレーヤー、オフェンスではリングへ果敢にペイントアタックし、ディフェンスではスティールから流れを引き寄せる。相手にプレッシャーを与える存在として目に見えない威圧感でもチームに貢献する。**原田悠捺**は守備の要、的確なヘルプと粘り強い守備で相手の攻撃を封じることが秀でる。攻撃面では巧みなカッティングやスペースへの走り出しでチャンスを生むだけでなくシューターとしてもチームに勢いを与える存在、今大会でも攻守で存在感を発揮して欲しい。上級生を中心にこれまで支えてくれた人々への感謝を胸に、仲間とともに最後まで諦めず一つひとつのプレーを大切に戦うことを誓い、指導者も含めた全員で粘り強く戦い抜き4年ぶりの勝利を目指す。そして先輩からの薫陶を受けた後輩たちが来年もウインターに出場への決意してくれることを私は個人的に強く願う。

このブロックの注目選手として、**松村典奈**、**窪野琴乃**、**大原絆夏**、**望月柑那**、**井上夏海**、**永田優花**（藤枝順心）、**杉山莉寿**、**竹ノ内杏優**、**野田希**、**濱島莉乙**、**前田美桜**、**海野さくら**（市立沼津）、**溝口冬姫**、**岩崎由葉**、**長野瑞希**（富士東）、**内山留留**、**袴田蒼**、**袴田茜**、**上田遥花**、**山田咲織**、**関根璃子**、**中澤澁**、**加藤仁美**（浜松市立）、**杉山涼香**、**寺田梨暖**、**杉山椎香**（常葉大橋）、**高柿美咲希**、**鈴木遥陽**、**曾我部一花**、**小河路希美**、**中村紗世**（浜松商業）、**加藤亜希菜**、**伊藤瑞真**、**望月優里**（磐田西）、**望月徠夢**（静岡市立）、**佐藤晴里奈**、**市川芙希子**、**稲葉凛**、**芦澤美波**、**遠藤さくら**（三島北）、**小出千咲登**、**攪上心美**、**下位亜椰**（浜松湖東）、**天野楓**（掛川西）、**荒岡杏羽**、**才木友**、**坂田明日海**、**神尾乙華**（富士市立）、**堀池紅杏**（富士宮西）などを挙げたい。

右下のブロックは、打倒・浜松開誠館の一番手、戦力は今は絶頂期、全員が得点源、41年ぶりの優勝と全国を射程圏内に捉えた県新人・県総体準優勝の**浜松南**の強さが群を抜いている。それに続くのは、長く県上位を保ちながらも4強の厚い壁に跳ね返され続け、それでも変革を求め一心不乱に何度もチャレンジ、今回も飽くなき姿勢で挑む常葉大常葉。両者は県総体準々決勝で対戦し浜松南が相澤の独壇場で大勝しているが常葉も同じ轍を踏まないよう対策を十分に講じているはずで好勝負が期待される。

打倒・浜松開誠館の最有力に挙げられるのは県新人・県総体準優勝の**浜松南**。昨年・今年と合わせて4回出場した東海大会すべてで勝利を挙げるなど近年の活躍は県内に留まらず、その強さは全国屈指の激戦区・東海でも通用することが証明されている。また8月に行われた皇后杯予選では最後の最後で逆転され静岡大学に2点差で敗れたものの終始優位に試合を展開、上位カテゴリー相手に互角以上の戦いが出来たことに手応えを感じたはずである。今年は3年生全員がウインターまで残り過去最高の戦力を維持、ピークを迎えて満を持して最高峰の大会に臨む。予想される常葉大常葉・市立沼津との戦いに勝利を収め、絶対王者とも西部総体決勝で演じた4点差の試合が再現出来れば優勝、そして全国出場も決して夢物語ではない。このチームの強みはWエースに加えて多種多彩の実力派選手が揃うことである。

金子莉央は県選抜でも活躍したこの世代を代表する司令塔、エルボー位置から一気に加速して鋭角に切れ込む弾丸ドライブ



はまさにアンタッチャブル、誰にも止められない。ディフェンスとの間合いによっては逆サイドに切れ込み、対応されれば仲間の合わせに呼応、時には意表を突いたフローターシュートも放つ。東海総体・名経大高蔵戦では20得点10リバウンドのダブルダブル達成、静岡大学戦では32得点を上げるなど東海レベル・大学生レベルでもお手上げの状態、となれば県内高校生にとっては彼女を止めるのは至難の業である。もう一人のエース・**相澤彩乃**は173cmの長身を生かしたポストプレーとリバウンドからのセカンドチャンスをクリエイトすることに一日の長がある。圧巻だったのは県総体準々決勝・常葉大常葉戦、驚異の56得点、大会初戦ではなく完全な上位戦でこれだから脱帽するより他にない。東海総体2試合でも34得点、まさに点を取らせたら彼女の右に出る存在はいないスコアラー。ダブルチームの間を巧みなステップで抜ける技術も芸術品だが、私は彼女の数多くある攻撃パターンの中で、執拗に寄ってくる相手に巻き付くように身体を入れて放つシュートを高く評価する。半ば強引に映るシーンではあるがきちんとオフENSEスチャージやバックホールディングにならないよう綿密に計算されていることを私は見逃していない。170cm**金森柚妃**は東海総体・岐阜女子戦で全国制覇5回を誇る泣く子も黙る強豪相手に13点を獲得、相手のシュート位置とボールの軌道をいち早く察知して強靱なフィジカルでディフェンスリバウンドを支配、敗れたものの最終スコア10点差という僅差の試合に持ち込んだ功労者で度胸満点の3Pも魅力、唯一の気がかりは夏場に負った脚の負傷の回復具合だけである。チーム最高身長175cm・**鈴木華蓮**はポストプレーやリバウンド、外からのドライブに秀でる選手、守備面ではジャンプトゥザボールへの意識付けも高く、加えて勝負所で独特のルーティンから冷静沈着に放たれる確実性の高いフリースローは職人芸、静岡大学戦は手に汗握る展開の中10本も決めた。173cm**鈴木瑚々**はキャリア抜群の3Pシューター、名経大高蔵戦でも4本を決め相手の攻め気を削ぐ効果的な役割を果たした。県総体での怪我を克服しコートに戻ってきた**大隅友梨乃**は久々の実戦となる静岡大学戦で持ち前の華麗なプレーを披露、特にベースラインからカットインしてくる金子が挙げるターゲットハンドにドンピシャと落としたループパスはテクニックが全く錆びついていないことを証明した。岐阜女子戦で先発出場した**鈴木沙有礼**は東海国スポ準優勝を経験、今秋の青森国スポでもさらなる活躍が期待される。

高い得点力を武器に粘り強いディフェンスと球際への並々ならぬ執着で勝利を手にするバスケットがポリシー、スタメンの平均身長が170cmを上回る高さのメリットを使ってスペーシングやパスコースを作るシャローカットやポストでボールを支配した選手から出されるバックドアなど攻撃も多彩、その中でも泥臭いバスケを絶対忘れずに今度こそ無双女王の牙城を崩す。

大会史上最多優勝16回を誇る**常葉大常葉**は3年前のこの大会で**佐野恵子**監督が着任以来、安定して県上位をキープしながら最高順位は5位、ベスト4の厚い壁に阻まれ続けている。今回は県総体で敗れている浜松南に競り勝ってその壁を是が非でも突破したい。

大会屈指の司令塔・**堀田明里**は広い視野、多彩なパスワーク、状況に応じ緩急を付けたボールキャリアー、素早くパーミングから救い上げてのワンハンドパスなど美技の数々を事細かに挙げれば紙幅が尽きる。県総体では直接得点に絡むシーンも多々見られ静岡東戦では得も言われぬ美しい軌道を描いて吸い込まれるような3P3本を含む22得点、勝利をもたらすとともに県7位を確保、悲願の4強入りに可能性をつなげるウインター第7シードを確保した。**池田千穂**が見せる無限のオフENSEバリエーションには圧倒されるばかりである。ブロック対策で見せるフェイダフェイ・ダブルクラッチ・フックシュート、大型選手が待つゴール下へのペイントアタックなどバランスのいい体幹から繰り出される攻撃力が魅力、中部総体・藤枝順心戦でもミニバス時代同じ釜の飯を食べた富田相手に22cmの身長差に関係なく戦いを挑んだシーンが記憶に残る。その他にも、一つ一つのプレーに丁寧に向き合いどんなプレーもそつなくこなすユーティリティープレーヤー・**佐野麻帆**、リバウンドやルーズボールなど球際の粘りがチームの士気を上げる**佐野梨帆**、相手を引き付けておいて玄人はだしの絶妙なタイミングで放たれるパスが絶品・**野入ひな**などメンバーは県4強入りに足る戦力が揃う。相手の隙を見逃さず常にボールマンにアプローチしそのパスコースを狭めて攻め手をなくし、すかさずボールを奪ってブレイクにつなげるバスケットで浜松南にリベンジし5年ぶりのメインコートに立つ。

県総体ベスト16・**浜松聖星**も忘れてはいけない。3年前の大会では3位入賞、以降の県大会でもベスト8、ベスト16を堅持し続けている。今大会は1、2年のみの新チームで臨み、中学時代にJr. ウインターに出場経験のあるスピード満載のドリブラー・**高澤詩織**という絶対的エースを中心に、**大場有夏**・**高橋七海**・**橋本瑠奈**など総体予選でも活躍した実戦経験豊富な面々で勝ち進み、西部新人で敗れた浜松南に雪辱を期すことを誓う。

このブロックの注目選手として、**安間早紀**、**数原沙輝**、**西沢紗奈**、**安間奈央**、**坂倉百香**、**飯田羽奏**（浜松南）、**原優花**、**三田優里愛**、**名波千尋**、**花枝美音**、**鈴木愛海**、**小林咲妃**（常葉大常葉）、**山田沙和**、**松平光稀**、**後藤玲奈**（浜松聖星）、**田形はる**、**根緒美来乃**、**小久保芽衣**、**木島良美**、**原彩香**、**梅原朋華**、**大棟和香奈**（日大三島）、**宮城島夢子**、**平沢妃花**、**神谷芽維**、**大井真琉**、**矢嵩優**（清水南）**遠藤星乃**（清水西）、**矢嵩こころ**、**望月美彩希**、**澤本真央**、**山本奈央**（静岡女子）、**鈴木花音**、**廣瀬あかり**、**松田凜咲**、**大谷歩南**、**畑中衣鈴**、**平山乃唯**（浜松日体）、**勝又莉矛**、**武井結梨**、**鈴木里梨**、**小林桃子**（加藤学園暁秀）、**栗田恋羽**、**塩坂彩葉**、**望月葵衣**、**水崎こころ**、**須山心彩**、**山下美帆**、**芦川萌衣**（静岡大成）、**山地愛花**、**柴田聖菜**、**中村花帆**（浜松湖南）、**海野真莉伊**（静岡農業）、**當路モニカ**、**勝又日菜**（御殿場西）、**堀口愛永**、**杉山愛月**（桐陽）、**藤井りあ**、**川崎春うた**（下田）、**高橋寧々**（袋井商業）などを挙げたい。

全国高校選抜優勝・選手権大会(ウインターカップ)県予選全記録



回数	年度	開催地	男子				女子			
			優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位	4位
1	S45	代々木	浜松商	清水東	静岡 / 清水南		浜松市立	藤枝西	静岡女子商 / 清水西	
2	S46	代々木	静岡商	清水南	浜松商 / 静岡市立		浜松市立	静岡精華	静岡女子商 / 清水西	
3	S47	代々木	富士宮北	浜松商	静岡商	浜松西	清水西	浜松湖東	静岡女子商	清水女子
4	S48	代々木	浜松商	静岡商	浜松西	静岡市立	清水西	浜松湖東	浜松南	富士見
5	S49	代々木	浜松商	静岡商	清水南	藤枝東	清水女子	誠心	清水西	静岡精華
6	S50	代々木	浜松商	静岡東	日大三島	静岡商	静岡精華	浜松市立	藤枝西	誠心
7	S51	代々木	日大三島	浜松商	静岡	静岡東	浜松市立	静岡精華	静岡女子商	清水西
8	S52	代々木	興誠	藤枝東	静岡商	静岡	浜松市立	清水西	静岡精華	藤枝西
9	S53	代々木	静岡東	浜松商	興誠	御殿場南	浜松市立	浜松湖東	清水西	浜松南
10	S54	代々木	浜松西	浜松北	日大三島	自動車工	静岡精華	浜松市立	静岡女子商	清水西
11	S55	代々木	興誠	浜松西	静岡	清水南	静岡精華	市立沼津	静岡女子商	誠心
12	S56	代々木	興誠	静岡東	浜松北	富士	市立沼津	浜松南	磐田北	静岡西
13	S57	代々木	興誠	浜松西	浜松商	静岡	浜名	浜松南	浜松市立	市立沼津
14	S58	代々木	興誠	浜松西	浜松商	韮山	浜松市立	西遠女子	浜松南	沼津精華
15	S59	代々木	静岡	浜松西	浜松商	興誠	市立沼津	浜松南	静岡精華	静岡西
16	S60	代々木	興誠	浜松西	静岡	浜松商	浜松南	浜名	市立沼津	静岡西
17	S61	代々木	興誠	浜松商	沼津学園	浜松西	浜松市立	市立沼津	浜松南	沼津精華
18	S62	神戸	興誠	沼津学園	浜松西	静岡市立	市立沼津	浜松市立	誠心	浜松南
19	S63	代々木	興誠	浜松西	沼津学園	静岡市立	市立沼津	誠心	静岡城北	西遠女子
20	H 1	代々木	沼津学園	浜松西	興誠	浜松商	市立沼津	誠心	常葉学園	西遠女子
21	H 2	代々木	浜松西	沼津学園	浜松商	興誠	常葉学園	西遠女子	沼津精華	浜松市立
22	H 3	代々木	浜松西	興誠	静岡市立	沼津学園	常葉学園	市立沼津	誠心	西遠女子
23	H 4	代々木	興誠	浜松西	沼津学園	加藤学園	常葉学園	市立沼津	誠心	御殿場
24	H 5	代々木	沼津学園	浜松西	浜松商	興誠	市立沼津	常葉学園	沼津精華	西遠女子
25	H 6	代々木	沼津学園	興誠	浜松西	加藤学園	市立沼津	常葉学園	沼津中央	浜松市立
26	H 7	東京	興誠	沼津学園	浜松商	浜松西	市立沼津	静岡精華	静岡市立	浜松市立
27	H 8	代々木	興誠	沼津学園	浜松西	浜松商	市立沼津	常葉学園	静岡女子	沼津中央
28	H 9	東京	沼津学園	浜松湖東	浜松西	静岡	常葉学園	市立沼津	静岡女子	沼津中央
29	H10	東京	浜松湖東	浜松西	沼津学園 / 興誠		静岡女子	市立沼津	静岡商 / 常葉学園	
30	H11	東京	興誠	浜松湖東	静岡 / 静岡学園		静岡商	市立沼津	沼津中央 / 常葉学園	
31	H12	東京	静岡学園	興誠	静岡 / 沼津学園		静岡商	常葉学園	沼津中央 / 市立沼津	
32	H13	東京	興誠	沼津学園	加藤学園 / 星陵		常葉学園	静岡商	興誠 / 市立沼津	
33	H14	代々木	浜松商	沼津学園	加藤学園 / 興誠		常葉学園	静岡商	興誠 / 市立沼津	
34	H15	東京	浜松商	飛龍	静岡西 / 興誠		沼津中央	常葉学園	静岡商 / 静岡女子	
35	H16	東京	飛龍	静岡学園	静岡西 / 浜松商		常葉学園	沼津中央	浜松開誠館 / 静岡女子	
36	H17	東京	飛龍	浜松商	興誠 / 浜松工		常葉学園	沼津中央	浜松開誠館 / 静岡商	
37	H18	東京	飛龍	藤枝明誠	浜松商 / 伊豆中央		常葉学園	静岡商	浜松開誠館 / 清水西	
38	H19	東京	藤枝明誠	飛龍	興誠 / 静岡学園		常葉学園	浜松開誠館	沼津中央 / 市立沼津	
39	H20	東京	藤枝明誠	興誠	飛龍 / 静岡学園		常葉学園	市立沼津	沼津中央 / 浜松開誠館	
40	H21	東京	藤枝明誠	興誠	飛龍 / 静岡学園		市立沼津	浜松開誠館	沼津中央 / 静岡女子	
41	H22	東京	沼津中央	藤枝明誠	興誠 / 浜松商		市立沼津	静岡商	常葉学園 / 静岡女子	
42	H23	東京	沼津中央	藤枝明誠	浜松学院 / 浜松商		常葉学園	静岡女子	浜松開誠館 / 静岡南	
43	H24	広島	沼津中央	藤枝明誠	浜松学院 / 浜松商		常葉学園	市立沼津	浜松開誠館 / 沼津中央	
44	H25	東京	藤枝明誠	沼津中央	飛龍	静岡東/浜松学院	常葉学園	市立沼津	浜松開誠館 / 駿河総合	
45	H26	東京	藤枝明誠	沼津中央	飛龍 / 浜松学院		常葉学園	駿河総合	浜松開誠館 / 浜松海の星	
46	H27	東京	沼津中央	飛龍	藤枝明誠 / 浜松学院		常葉学園	浜松開誠館	駿河総合 / 沼津中央	
47	H28	東京	浜松学院	沼津中央	飛龍 / 藤枝明誠		浜松開誠館	駿河総合	常葉学園 / 沼津中央	
全国高等学校選手権大会(ウインターカップ)										
70	H29	東京	飛龍	藤枝明誠	浜松学院 / 浜松開誠館		浜松開誠館	市立沼津	常葉大常葉 / 藤枝順心	
71	H30	武蔵野の森	飛龍	浜松開誠館	浜松学院 / 藤枝明誠		浜松開誠館	駿河総合	常葉大常葉 / 藤枝順心	
72	R元	武蔵野/八王子	藤枝明誠	飛龍	浜松学院 / 静岡学園		浜松開誠館	常葉大常葉	市立沼津 / 藤枝順心	
73	R2	東京/武蔵野	飛龍	藤枝明誠	静岡学園 / 沼津中央		浜松開誠館	浜松市立	市立沼津 / 静岡西	
74	R3	東京/駒澤	浜松開誠館	飛龍	藤枝明誠 / 浜松学院		浜松開誠館	常葉大常葉	市立沼津 / 浜松学院	
75	R4	東京/大田区	藤枝明誠	浜松開誠館	飛龍 / 浜松学院		浜松開誠館	浜松学院	市立沼津 / 浜松南	
76	R5	東京/武蔵野	藤枝明誠	浜松学院	飛龍	浜松開誠館	浜松開誠館	市立沼津	浜松聖星 / 浜松学院	
77	R6	東京/武蔵野	藤枝明誠	浜松開誠館	沼津中央 / 飛龍		浜松開誠館	浜松南	市立沼津 / 沼津商	
78	R7	東京/京王	藤枝明誠	浜松学院興誠	浜松開誠館	静岡学園	浜松開誠館	市立沼津	浜松学院興誠 / 藤枝順心	
79	R8	東京/京王								

網掛け は全国大会出場